（様式第 10）

広大病医事第[redacted]
平成２９年[redacted]

厚生労働大臣　殿

開設者名（管理者名）　広島大学病院長[redacted]
平　川　勝[redacted]

広島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒739-8511　東広島市鏡山一丁目３番２号
氏　　名	国立大学法人広島大学　広島大学長　越智　光夫

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

広島大学病院

3　所在の場所

〒734-8551
広島市南区霞一丁目２番３号　　電話(　082　)　257　－　5555

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	㊒　・　無

内科と組み合わせた診療科名等

①呼吸器内科	2消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		⑪リウマチ科

診療実績

消化器内科及び代謝内科については消化器・代謝内科で医療を提供している。
神経内科については脳神経内科で医療を提供している。
内分泌内科については内分泌・糖尿病内科で医療を提供している。

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	㊒　・　無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科　②消化器外科　③乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　⑥心臓血管外科　7内分泌外科　⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科　②小児科　③整形外科　④脳神経外科　⑤皮膚科　⑥泌尿器科 ⑦産婦人科　8産科　9婦人科　⑩眼科　⑪耳鼻咽喉科　12放射線科 ⑬放射線診断科　⑭放射線治療科　⑮麻酔科　⑯救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	㊒　・　無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科　②矯正歯科　③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科 2 腫瘍内科 3 病理診断科 4 形成外科 5 リハビリテーション科

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
20床	2床	床	床	724床	746床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常　勤	非常勤	合　計	職　種	員　数	職　種	員　数
医　師	496人	254人	583.1人	看護補助者	42人	診療エックス線技師	人
歯科医師	172人	55人	196.2人	理学療法士	31人	臨床検査技師	69人
薬剤師	65人	0人	65人	作業療法士	8人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	9人	その他	人
助産師	18人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	865人	17人	876.2人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者	人
准看護師	人	人	人	栄養士	5人	その他の技術員	60人
歯科衛生士	25人	0人	25人	歯科技工士	8人	事務職員	407人
管理栄養士	13人	0人	13人	診療放射線技師	54人	その他の職員	98人

（注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	54人	眼科専門医	11人
外科専門医	45人	耳鼻咽喉科専門医	19人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	20人
小児科専門医	23人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	27人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	25人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	17人
		合　計	305人

（注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　平川　勝洋　）　任命年月日　平成27年　4月　1日

平成18年4月1日～平成23年3月31日の5年間，医療安全管理部長に就任

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	594.0　人	15.4　人	609.4　人
1日当たり平均外来患者数	1825.1　人	518　人	2343.1　人
1日当たり平均調剤数	1013.0　剤		
必要医師数	166　人		
必要歯科医師数	28　人		
必要薬剤師数	21　人		
必要（准）看護師数	384　人		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	689.5m^2	鉄筋コンクリート	病床数	33床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積　166.5m^2　病床数　10床 ［移動式の場合］　台数　台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床積　114.9m^2 ［共用室の場合］　共用する室名　治験資料室・薬務室・副部長室					
化学検査室	540.0m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）CO2ｲﾝｷｭﾍﾞｰﾀｰ，FFP解凍器，ｸﾘｰﾝﾍﾞﾝﾁ，ﾙﾐﾈｯｸｽ，遠心機，分光光度計，位相差顕微鏡，ﾘｱﾙﾀｲﾑPCR			
細菌検査室	68.0m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）MIC測定装置，ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ，ﾊﾟｽﾎﾞｯｸｽ，安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ，遺伝子分析装置，恒温器，顕微鏡，冷蔵庫			
病理検査室	254.0m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）ｸﾘｵｽﾀｯﾄ，顕微鏡，保冷庫，細胞診標本作成装置，ﾊﾞｲｵｸﾘｰﾝﾍﾞﾝﾁ，自動免疫染色装置，超純水製造装置			
病理解剖室	122.5m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）臓器写真台，解剖台，ﾎﾙﾑｲﾚｲｻｰ脱臭装置，酸素ｸﾗｽﾀｰ除菌脱臭装置，光触媒空気清浄器，ﾎﾙﾏﾘﾝﾘｻｲｸﾙ装置			
研究室	173.0m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）顕微鏡，パソコン，超微量ﾊﾟｰｿﾅﾙ分光光度計，微量遠心機，PCR装置，全自動核酸抽出装置，ﾎﾓｼﾞﾅｲｻﾞｰ			
講義室	1372.1m^2	鉄筋コンクリート	室数　20室		収容定員　631人	
図書室	42.8m^2	鉄筋コンクリート	室数　1室		蔵書数　10,000冊程度	

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	94．1％	逆紹介率	90．3％
算出根拠	A：紹介患者の数	14034	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14639	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1208	人
	D：初診の患者の数	16205	人

（注）1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
渡邊　弘司	広島県医師会・常任理事		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
福永　宏	福永宏・福永孝法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
中川　圭	認定NPO法人乳がん患者友の会きらら・理事長		医療を受ける者	無	2
木内　良明	広島大学病院・副病院長		学長が必要と認める者	有	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載	

（様式第 8）

広大病医事第１７[redacted]
平成２９年１０[redacted]

厚生労働大臣　　殿

開設者名（管理者名）　広島大学病院長[redacted]
平　川　勝[redacted]

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

厚生労働省が公募している「特定機能病院管理者研修事業」を実施する団体の研修会を受けることとしている。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（３）名、専任（１）名、兼任（１）名
うち医師：専従（　）名、専任（１）名、兼任（１）名
うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（　）名
うち看護師：専従（２）名、専任（　）名、兼任（　）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師については，平成 30 年 4 月 1 日から，専任医師を 2 名配置する予定。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	0 人
前眼部三次元画像解析	33 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法　肺がん（扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。）	0 人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法　成人T細胞白血病リンパ腫（症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。）	0 人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法　初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫（病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。）	2 人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法　切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0 人
テモゾロミド用量強化療法　膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）	0 人
術後のホルモン療法及びS－1内服投与の併用療法　原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）	0 人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	76
2	筋萎縮性側索硬化症	21	57	特発性拡張型心筋症	51
3	脊髄性筋萎縮症	8	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	70
6	パーキンソン病	96	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	82
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	35
11	重症筋無力症	48	66	IgA 腎症	31
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	26
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	89	68	黄色靭帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	20	69	後縦靭帯骨化症	54
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	139
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	54	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	24
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	14	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	59	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	23
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	112
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	17	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	59
30	遠位型ミオパチー	4	85	特発性間質性肺炎	39
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	56
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	40
34	神経線維腫症	34	89	リンパ脈管筋腫症	7
35	天疱瘡	42	90	網膜色素変性症	13
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	87
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	7
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	27
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	292
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	421
43	顕微鏡的多発血管炎	18	98	好酸球性消化管疾患	9
44	多発血管炎性肉芽腫症	14	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	44	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	248	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	93	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	100	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	21	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	29	108	TNF受容体関連周期性症候群	2
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	5
113	筋ジストロフィー	12	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	14
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	2	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	13
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－1－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	31

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L―アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算	・退院支援加算【加算1】
・歯科診療特別対応連携加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料3
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料3
・医師事務作業補助体制加算1	・特定集中治療室管理料4
・急性期看護補助体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・小児入院医療管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
・糖尿病合併症管理料	・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
・がん性疼痛緩和指導管理料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・がん患者指導管理料1	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・がん患者指導管理料2	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・がん患者指導管理料3	・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。）
・外来緩和ケア管理料	・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・糖尿病透析予防指導管理料	・羊膜移植術
・外来放射線照射診療料	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）	・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
・がん治療連携計画策定料	・網膜再建術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・薬剤管理指導料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
・医療機器安全管理料1	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
・医療機器安全管理料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・医療機器安全管理料（歯科）	・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・遺伝学的検査	・経皮的冠動脈形成術（特殊ｶﾃｰﾃﾙによるもの）
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・経カテーテル大動脈弁置換術
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・経皮的中隔心筋焼灼術
・国際標準検査管理加算	・ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術及びﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術
・遺伝カウンセリング加算	・両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術及び両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・胎児心エコー法	・両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器移植術及び両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器交換術

・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・大動脈ﾊﾞﾙｰﾝﾊﾟﾝﾋﾟﾝｸﾞ法（IABP法）
・ヘッドアップティルト試験	・補助人工心臓
・長期継続頭蓋内脳波検査	・ 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・ 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・脳波検査判断料1	・体外衝撃波胆石破砕術
・遠隔脳波診断	・腹腔鏡下肝切除術
・脳磁図	・生体部分肝移植術
・神経学的検査	・同種死体肝移植術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除
・小児食物アレルギー負荷検査	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・有床義歯咀嚼機能検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・画像診断管理加算2	・同種死体腎移植術
・歯科画像診断管理加算1	・生体腎移植術
・歯科画像診断管理加算2	・膀胱水圧拡張術
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・外傷全身CT加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・心臓MRI撮影加算	・輸血管理料Ⅰ
・乳房MRI撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・外来化学療法加算1	・歯周組織再生誘導手術
・無菌製剤処理料	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・心大血管疾患ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料（Ⅰ）	・歯根端切除手術の注3
・脳血管疾患等ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料（Ⅰ）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・運動器ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料（Ⅰ）	・麻酔管理料（Ⅱ）
・呼吸器ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料（Ⅰ）	・放射線治療専任加算

・がん患者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料	・外来放射線治療加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・高ｴﾈﾙｷﾞｰ放射線治療
・認知療法・認知行動療法1	・1回線量増加加算
・医療保護入院等診療料	・強度変調放射線治療（IMRT）
・ｴﾀﾉｰﾙの局所注入（甲状腺）	・画像誘導放射線治療（IGRT）
・ｴﾀﾉｰﾙの局所注入（副甲状腺）	・体外照射呼吸性移動対策加算
・透析液水質確保加算2	・定位放射線治療
・磁気による膀胱等刺激法	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・手術用顕微鏡加算	・画像誘導密封小線源治療加算
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・病理診断管理加算1
・歩行運動処置（ロボットスーツによるもの）	・口腔病理診断管理加算　1
・CAD／CAM冠	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・手術時歯根面レーザー応用加算	・歯科矯正診断料
・歯科技工加算1及び2	・顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	・
・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.)臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間約140回
剖検の状況	剖検症例数 38 例 ／ 剖検率 7.9 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/安全性と医療効率の向上を両立するスマート治療室の開発	栗栖 薫	脳神経外科	22,715,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による新規肝炎／肝癌治療法の開発	大段 秀樹	消化器外科	35,100,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
頭頸部癌に対するマイクロRNA解析	田原 栄俊	大学院医歯薬保健学研究科・細胞分子生物学	9,350,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
医療・介護用サポーター等に持続的な抗菌効果を付加するための再生リチャージ可能な抗菌繊維の開発	阿部 泰彦	口腔インプラント診療科	1,925,545	補 委	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター
自己骨髄間葉系細胞の磁気ターゲティングによる関節軟骨欠損修復	越智 光夫	学長，整形外科	10,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
心不全地域連携サポートチーム体制の構築事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	4,525,000	補 委	広島県
難病特別対策推進事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,007,000	補 委	厚生労働省
がんのゲノム医療・集学的治療推進事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,009,000	補 委	厚生労働省
ドクターヘリ導入促進事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	250,699,000	補 委	広島県
広島県ドクターヘリ消防無線デジタル化事業費補助金	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,865,000	補 委	広島県
がん診療連携拠点病院機能強化事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	34,403,000	補 委	厚生労働省
産科医等確保支援事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	970,000	補 委	広島県
新人看護職員研修事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,507,000	補 委	広島県
防災訓練等参加支援事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	258,000	補 委	広島県
感染症予防事業	平川 勝洋	病院長，耳鼻咽喉科・頭頸部外科	4,972,000	補 委	広島県
ニーズに基づいた専門医の養成に係る研究	松本 正俊	総合診療科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
産休・育休中の女性医師によるITを用いた僻地・在宅診療支援	横林 賢一	総合診療科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新医師臨床研修制度は医師分布を改善したか−人口地理指標・診察料・施設からの分析−	松本 正俊	総合診療科	320,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
地域枠出身医師の進路に関するコホート研究	松本正俊	総合診療科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田妻 進	総合診療科	400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
熱中症の低リスク群および死亡事例におけるリスク因子の検討	宮森 大輔	総合診療科	632,892	補 委	文部科学省科学研究費補助金
変性脂質による腫瘍性コランギオパチー発症とその制御に関する検討	田妻 進	総合診療科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Noda epileptic ratを用いた迷走神経刺激療法作用機序解明	飯田 幸治	脳神経外科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
悪性脳腫瘍に対するVEGF阻害剤投与時の治療効果予測	山崎 文之	脳神経外科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
世界最小径再生型人工血管の開発とその成長性の可能性	石井 大造	脳神経外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳梗塞ラットに対するヒト頭蓋骨骨髄間葉系幹細胞移植	岡崎　貴仁	脳神経外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
非機能性下垂体腺腫細胞の多ホルモン分泌機序解明－人工下垂体への応用を目指して	富永 篤	脳神経外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
オプチニューリン変異マウスによる筋萎縮性側索硬化症の病態解明・治療法の開発	丸山　博文	脳神経内科	3,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト一倍体細胞を用いた遺伝子トラップ法によるTDP-43関連遺伝子の同定	川上　秀史	脳神経内科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝学的アプローチによる小脳機能障害の解明	川上　秀史	脳神経内科	7,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
軸索再生を基軸としたGPR3の機能解析と中枢神経障害に対する新規再生療法への応用	田中 茂	脳神経内科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳梗塞における神経細胞死誘導機構の解明と急性期血液診断法の開発	細見 直永	脳神経内科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
BPSDにより精神科病院に入院する認知症患者を対象とした全国規模での入院実態調査	岡村　仁	精神科	14,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
うつ病の神経回路病態の解明とそのリモデリングに関わる基盤研究	山脇 成人	精神科	9,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
うつ病患者の自伝的記憶の概括化に対する治療法の検討	横山　仁史	精神科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高齢期うつ病の1次・2次予防に向けたBDNFのエピジェネティクス疫学の縦断的研究	淵上　学	精神科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
思春期からの主体価値の発展過程解明	岡本　泰昌	精神科	11,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
治療薬標的遺伝子のメチル化及びCNVによる気分障害の治療抵抗性マーカの創出	淵上　学	精神科	150,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
若年・中年・高齢乳がんサバイバーの生活構築の構造化とその比較	岡村　仁	精神科	50,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
精神障害者の地域生活定着にむけたアウトリーチチームによる地域ケア連携システム開発	岡村　仁	精神科	50,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
統合失調症者の自己主体感の改善およびリハビリテーションに寄与する運動療法の開発	岡村　仁	精神科	150,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
認知行動療法の神経科学的基盤の解明	岡本　泰昌	精神科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
認知症の行動・心理症状(BPSD)に対するマニキュア療法の有効性の検証	岡村　仁	精神科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性疼痛に対する抗うつ薬治療と認知行動療法の神経科学的修復機構の解明	吉野 敦雄	精神科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
角膜感染症に対する光線力学的抗微生物化学療法(PACT)の開発と臨床応用	近間 泰一郎	眼科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
眼球の剛性は緑内障の危険因子か	木内　良明	眼科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
上気道好酸球性炎症における客観的バイオマーカーの確立と治療への応用	竹野　幸夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
びまん性肺疾患に関する調査研究	服部　登	呼吸器内科	300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
癌関連線維芽細胞の筋線維芽細胞への分化による腫瘍進展促進:PAI-1の関与の検討	益田 武	呼吸器内科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌への個別化免疫療法の開発:変異遺伝子由来抗原の同定とiPS細胞技術の応用	服部 登	呼吸器内科	4,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
薬剤に対してプライムされた骨髄細胞に焦点を当てた薬剤性肺障害の病態解明	中島 拓	呼吸器内科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
BNPを介した新規Cancer autocrine pathwayの解明	津谷 康大	呼吸器外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
レーザープロテオミクスを用いた悪性胸膜中皮腫浸潤メカニズムの解明と臨床応用	宮田 義浩	呼吸器外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
網羅的プロテオミクスとジェノミクスによる肺癌リンパ節転移機構の解明と新分類の提唱	伊藤 正興	呼吸器外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
DNA損傷の定量を基盤とした心血管病リスクマーカーの確立	石田 万里	循環器内科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
セマフォリン3A遺伝子変異と関連する特発性心室細動発症の分子病態メカニズムの解明	中野 由紀子	循環器内科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ミトコンドリア酵素ALDH2遺伝子変異と心不全:iPS細胞誘導心筋細胞での検討	木原 康樹	循環器内科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
下肢虚血性血管新生における間歇的圧迫法の有用性とその機序の解明	丸橋 達也	循環器内科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
心外膜下脂肪組織の多面的病的意義の解明 -画像診断と組織学的解析による検討-	北川 知郎	循環器内科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
心膜脂肪組織における細胞性免疫異常と冠動脈粥状硬化	山本 秀也	循環器内科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病による心血管障害におけるROCKの役割:基礎から臨床へ	野間 玄督	循環器内科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
放射線誘発性動脈硬化性疾患の発症メカニズムにおけるDNA損傷応答の役割	石田 隆史	循環器内科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
トレハロースと微小重力下で培養した幹細胞による脊髄神経の保護と再生	高橋 信也	心臓血管外科	400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
胸部大動脈瘤ステントグラフト術後の遅延性対麻痺予測法と治療法の開発	片山 桂次郎	心臓血管外科	1,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
胸部動脈瘤ステントグラフト術後の遅延性対麻痺予測法と治療法の開発	末田 泰二郎	心臓血管外科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
人工心肺における連続血液粘度モニタリングシステム:推定アルゴリズム提案と臨床応用	末田 泰二郎	心臓血管外科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
微小重力培養した骨髄間葉系幹細胞による胸部大動脈瘤術後対麻痺の再生治療	末田 泰二郎	心臓血管外科	2,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
微小重力培養骨髄間葉系幹細胞と磁性粒子を用いた重症虚血肢再生治療	末田 泰二郎	心臓血管外科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
B型肝炎モデルマウスを作製し，急性重症肝炎に対する新規治療薬を探索する	平賀 伸彦	消化器・代謝内科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
安定同位体ラベルヒト初代培養肝細胞とウイルスを用いた抗ウイルス治療の開発	茶山 一彰	消化器・代謝内科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
胃上皮性腫瘍におけるヘリコバクターピロリ除菌の脱腫瘍化誘導機構の解明	伊藤 公訓	消化器・代謝内科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
C型肝炎ウイルスゲノム変異とヒトゲノム多型の相関に関する研究	越智 秀典	消化器内科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
DAA耐性型HCVに対する治療法の開発	今村 道雄	消化器内科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
DNA修復阻害による合成致死性を応用した新たな食道癌化学放射線療法の開発	浜井 洋一	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ROCK蛋白阻害剤と微小重力下で培養した幹細胞による心筋の保護と再生	田口 隆浩	消化器外科	2,900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒト化マウスを用いた同種/異種抗体関連型拒絶反応の新規制御法の確立	田原 裕之	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト化マウスを用いた同種移植における抗ドナー抗体産生制御法の開発	井手 健太郎	消化器外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
悪性胸膜中皮腫における次世代シークエンサーを用いた抗癌剤耐性メカニズムの解析	古川 高意	消化器外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子多型に起因するNK細胞の機能脆弱を克服する免疫賦活法の開発	大段 秀樹	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肝癌肝切除における血液凝固異常と術後肝不全、肝転移促進に関するメカニズムの解析	黒田 慎太郎	消化器外科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
多機能抑制性B細胞による臓器移植の新規脱感作・免疫寛容誘導法の開発	大段 秀樹	消化器外科	10,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
胆管癌における神経周囲浸潤と関連分子の発現モデル研究	上村 健一郎	消化器外科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
超小型広視野角カメラ画像情報合成による没入型内視鏡外科支援システムの開発と応用	惠木 浩之	消化器外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
免疫関連遺伝子多型解析に基づいた肝細胞癌循環腫瘍細胞制御法の開発	小林 剛	消化器外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
膵癌患者の末梢血検体におけるcell-free DNA KRAS遺伝子変異の研究	村上 義昭	消化器外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
膵島移植における肝臓内免疫感作の解明と制御法の開発	石山 宏平	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
TFGの膵臓・肝臓・脂肪組織における糖・脂質代謝調節機序の解明	山本屋 武	内分泌・糖尿病内科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
アルドステロン産生腺腫を基盤にした新規アルドステロン合成機構の解明	沖 健司	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
クロマチン修飾による褐色脂肪細胞分化制御機構の解明	大野 晴也	内分泌・糖尿病内科	6,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
プロリン異性化酵素Pin1, PAR14と含有複合体による代謝調節と治療への展開	浅野 知一郎	内分泌・糖尿病内科	3,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
メタボリックシンドローム発症における食事の欧米化による腸内細菌の変化の関与	大久保 博史	内分泌・糖尿病内科	2,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
炎症性腸疾患発症におけるプロリン異性化酵素Pin1の役割と治療法への応用	浅野 知一郎	内分泌・糖尿病内科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
温度変化による生体機能の変化に寄与するプロリン異性化酵素Pin1の役割	浅野 知一郎	内分泌・糖尿病内科	3,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯周病を合併したインスリン抵抗性関連疾患における補体分子CfBの訳アリの解明	浅野 知一郎	内分泌・糖尿病内科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
生活習慣の欧米化によるインクレチン・グルカゴン分泌の変化	米田 真康	内分泌・糖尿病内科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
体細胞変異に着目したアルドステロン産生細胞クラスターの病変進展メカニズムの解明	沖 健司	内分泌・糖尿病内科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
AU-rich element 依存性mRNA制御と関節リウマチ滑膜細胞機能変換	山崎 聡士	リウマチ・膠原病科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究	平田 信太郎	リウマチ・膠原病科	184,492	補 委	文部科学省科学研究費補助金
関節リウマチの関節破壊と寛解休薬後再燃リスクを予測する画期的バイオマーカーの探索	平田 信太郎	リウマチ・膠原病科	230,445	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Immune checkpointを標的としたHER2乳癌に対する薬物療法の開発	重松 英朗	乳腺外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Immunorelated TNBCに対する免疫逃避を標的とした新規治療の開発	郷田 紀子	乳腺外科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Wnt5a陽性乳癌の薬剤耐性獲得機構の解明と制癌療法への応用	梶谷 桂子(滑川桂子)	乳腺外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規Wnt5a関連細胞接着因子ALCAMを標的とした新しい乳癌治療法の開発	角舎 学行	乳腺外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
RORγT欠損症患者における播種性BCG感染症の発症機序の解明と治療法の開発	岡田 賢	小児科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	小林 正夫	小児科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究	小林 正夫	小児科	370,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新生児スクリーニングで発見されるMCAD欠損症例の急性発症リスク評価に関する研究	但馬 剛	小児科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
先天性骨髄不全症の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの確立に関する研究	小林 正夫	小児科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
包括的アプローチによる慢性皮膚粘膜カンジダ症の分子病態の解明と治療標的の探索	岡田 賢	小児科	5,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ゼブラフィッシュを用いた全個体レベルでの免疫系解析モデルの開発	一戸 辰夫	血液内科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
急性および晩発性放射線障害に対する包括的細胞治療法の開発	一戸 辰夫	血液内科	2,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔扁平上皮癌モデル動物の抗腫瘍免疫能に低線量・低線量率放射被ばくが及ぼす影響	一戸 辰夫	血液内科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
造血幹細胞移植後の再発を抑制するメカニズムの解明と養子免疫療法への応用	川瀬 孝和	血液内科	2,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
網羅的なT細胞受容体解析技術を用いた抗原特異的T細胞の機能的階層性の検討	美山 貴彦	血液内科	2,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎における皮膚細菌叢と皮膚免疫の解析	岩本 和真	皮膚科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
コリン性蕁麻疹における汗アレルギーの解明と新規診断・治療法の開発	平郡 隆明	皮膚科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ニューロメジンUによる皮膚型マスト細胞の活性化機構の解明	松尾 佳美	皮膚科	1,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	秀 道広	皮膚科	450,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
複雑系3次元ナノメタマテリアルの創成	柳瀬 雄輝	皮膚科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性蕁麻疹病態における好塩基球と血液凝固反応の役割解明	柳瀬 雄輝	皮膚科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
類洞内皮細胞を利用した食物アレルギーの予防法の開発	田中 暁生	皮膚科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
microRNAと骨髄単核球移植を併用した骨壊死症に対する新たな治療戦略	庄司 剛士	整形外科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
鏡視下腫瘍広範切除のための新しい蛍光バイオイメージングの開発	久保 忠彦	整形外科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
光を用いた離断性骨軟骨炎に対する新たな画像診断システムの開発	石川 正和	整形外科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨壊死に対するmiRNA導入骨髄単核球移植による骨修復促進効果	山崎 琢磨	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨髄間葉系幹細胞導入(骨穿孔術)による変形性膝関節症治療の確立	安達 伸生	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳科学的・運動学的根拠のある利き手・非利き手別リハビリテーションプログラムの開発	砂川 融	整形外科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
膝前十字靭帯再建術後に早期スポーツ復帰を行うための新しい多角的評価体系	中前 敦雄	整形外科	400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト脂肪組織由来幹細胞を用いた新たな末梢神経再生促進療法の開発	横田 和典	形成外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
局所麻酔薬が細胞内カルシウム濃度に与える影響についての研究	大月 幸子	麻酔科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた悪性高熱症の低侵襲的診断法の確立	近藤 隆志	麻酔科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病性神経障害性疼痛に対する抑肝散と加味逍遥散の鎮痛効果の検討	加藤 貴大	麻酔科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
培養ヒト骨格筋細胞を用いた運動誘発性横紋筋疾患の発症予防と発症予測に関する研究	河本 昌志	麻酔科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
間葉系幹細胞を用いた腎線維化の抑制:無血清培地の検討	正木 崇生	腎臓内科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
腎疾患に対する超音波療法の有効性に関する研究	中島 歩	腎臓内科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
H3K27脱メチル化酵素JMJD3の阻害による腎虚血再灌流障害に伴う腎老化の制御	土井 盛博	透析内科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
がん幹細胞性制御遺伝子を標的とした膀胱癌の新規治療法の開発	林 哲太郎	泌尿器科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺癌におけるFGFR2IIIbを用いた新規治療戦略の開発	正路 晃一	泌尿器科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺癌マーカーRegⅣ・OLFM4を標的とした新規診断・治療開発	松原 昭郎	泌尿器科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
磁気ターゲティングを用いた骨髄幹細胞移植による膀胱再生の開発	井上 省吾	泌尿器科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
腎細胞がん微小環境における骨髄由来間葉系幹細胞の機能解明	北野 弘之	泌尿器科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
前立腺癌増殖を制御する新たな癌統括酵素Par14の臨床応用を目指して	金岡 隆平	泌尿器科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
内分泌性FGFsの分子機構解明による去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療戦略の確立	亨島 淳	泌尿器科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
プラズマによる細胞/組織の活性化・改質及び再生医療への応用展開	工藤 美樹	産婦人科	300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳性麻痺へのCD133＋細胞投与効果の発現機序と制御するマイクロRNAの解明	田中 教文	産婦人科	1,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Dual-Energy CT による構成元素解析に着目した腎病変CT診断法の開発	本田 有紀子	放射線診断科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
大規模学習ニューラルネットワークを用いた低線量CT画像の画質修復	福本 航	放射線診断科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
逐次近似画像再構成法を用いた小児CTの被ばく低減	谷 千尋	放射線診断科	2,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
逐次近似画像再構成法を用いた低線量CTにおける冠動脈石灰化スコアの確立	立神 史稔	放射線診断科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
低電圧CTにおけるX線被ばくのDNA損傷に対する影響の検討	粟井 和夫	放射線診断科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
臨床用CTを用いた有限要素法による骨脆弱性評価に向けた横断的・縦断的研究	高須　深雪	放射線診断科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高精度重粒子線治療のためのフラットパネル検出器による粒子線画像化システムの研究	三木　健太朗	放射線治療科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高線量率画像誘導放射線治療装置を用いた新規照射技術の開発	永田 靖	放射線治療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
初発孤立性肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の有効性を検証する多施設共同試験	木村　智樹	放射線治療科	350,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
食道癌に対する強度変調放射線治療と画像誘導技術を用いた高精度放射線治療体系の構築	土井　歓子	放射線治療科	200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	木村　智樹	放射線治療科	150,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肺・肝臓癌に対する機能的画像を用いたオーダーメイド放射線治療法の開発	木村　智樹	放射線治療科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
放射線性心毒性低減を目指す食道癌への超短時間強度変調放射線治療技術の開発	村上　祐司	放射線治療科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
一細胞解析法を応用した小児腫瘍のCancer fluid biopsyの確立	上田　祐華	小児外科	723,042	補 委	文部科学省科学研究費補助金
腎肺クロストークを介した人工呼吸器誘発性腎障害のメカニズム解明	志馬　伸朗	高度救命救急センター	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
スマート都市・建築時代の温熱環境弱者に対する自立的活動支援マネジメントシステム	前田　慶明	リハビリテーション科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒトの歩行運動における大脳皮質運動野の役割～筋内・筋間コヒーレンス解析を用いて～	高橋　真	リハビリテーション科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
下肢変形性関節症に対するハイブリッドフィジオセラピーの効果	三上 幸夫	リハビリテーション科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
筋腱の粘弾性と筋硬度，身体パフォーマンスの向上につながるストレッチング方法の確立	前田 慶明	リハビリテーション科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
身体的不器用さをもった医療少年院在院者への認知機能強化介入プログラムの有効性	宮口 英樹	リハビリテーション科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
p62を介した選択的オートファジー誘導による口腔癌転移阻止療法の開発に関する研究	末松　美玲	顎・口腔外科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
α2－アンチプラスミンのNaked　DNA直接注入法による口腔癌遺伝子治療の開発	浜名　智昭	顎・口腔外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
インテグレーションフリー・無血清培養系での歯原性腫瘍由来iPSCの誘導と病態解明	濱田　充子	顎・口腔外科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
海洋生物由来新規生理活性物質の探索とヒトiPS細胞を用いた創薬応用への基礎的研究	吉岡　幸男	顎・口腔外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
顎顔面口腔疾患iPS細胞における病原変異遺伝子の人工ヌクレアーゼによるゲノム手術	岡本　哲治	顎・口腔外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
癌抑制遺伝子Pten異常カウデン症候群iPS細胞を用いた発症機序解明と治療法開発	神田　拓	顎・口腔外科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌幹細胞ニッチにおけるサイトカインネットワーク維持機構とその診断治療への応用	岡本 哲治	顎・口腔外科	3,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
染色体パッセンジャー複合体タンパクの分解とその破綻による航空発癌機構の解明と制御	岡本　哲治	顎・口腔外科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
無血清培養系での遺伝性顎口腔疾患特異的i PS細胞を用いた発症機構解明と治療応用	山崎　佐知子	顎・口腔外科	2,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
無血清浮遊培養系でのCD133陽性口腔癌由来sphereの細胞内分泌学的特性解析	虎谷 茂昭	顎・口腔外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アメロゲニン由来新規ペプチド固定バリアメンブレンの開発と骨再生誘導への応用	粟田 哲也	矯正歯科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ペプチド創薬とPRPを併用した歯周組織代謝活性の解明と歯根吸収予防治療への応用	吉見 友希	矯正歯科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
下顎頭軟骨の炎症発現メカニズムの解明とSema3Aを用いたPCRの予防法の確立	廣瀬 尚人	矯正歯科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
機能性アメロゲニンペプチド創薬とレーザーを応用した先進的歯根吸収予防治療法の確立	國松 亮	矯正歯科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯の移動時の歯根吸収発現に対する歯髄組織反応の影響と抗炎症剤の抑制作用の検討	角 明美	矯正歯科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯周組織の代謝活性作用を有するレーザーを応用した先進的矯正治療法の確立	柄 優至	矯正歯科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
微小環境構築による乳歯歯髄幹細胞(SHED)の動態制御と口蓋裂骨再生治療への応用	谷本 幸太郎	矯正歯科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
分化程度の異なる間葉系幹細胞の段階的投与による顎裂閉鎖治療法の有用性	沖 奈苗	矯正歯科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
変形性顎関節症の軟骨破壊に対するエストロゲンの作用機序の解明と診断法への応用	麻川由起(丹根由起)	矯正歯科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
未分化間葉系幹細胞とレーザーを併用した骨再生技術の確立と顎裂閉鎖治療への応用	鷲見 圭輔	矯正歯科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ALS患者の経口摂取延伸を目指すPAP療法最適期間の解明	平岡 綾	口腔インプラント診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
オーラルフレイルの早期発見・早期改善は全身フレイルを阻止できるか	吉川 峰加	口腔インプラント診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
スフィンゴミエリン/脂質ラフトを標的としたインプラント周囲炎の新たな予防法の開発	呉本 晃一	口腔インプラント診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
飴を舐める口腔機能訓練療法の開発	津賀 一弘	口腔インプラント診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
感染・汚染劣化防止機能を有した抗菌性医療用人工皮膚の開発	阿部 泰彦	口腔インプラント診療科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨メタボリズム促進型インプラント治療の確立	久保 隆靖	口腔インプラント診療科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
生体アパタイト配向性の臨床的評価を可能とする無被曝の骨質診断システム開発	岡田 信輔	口腔インプラント診療科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
認知症高齢者の飴を舐め摂る口腔機能と栄養状態の関係の解明	森 隆浩	口腔インプラント診療科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳と口腔のクロストーク破綻の分子生物学的解明	大上 博史	口腔インプラント診療科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
咀嚼機能低下に起因する認知症発症の分子機構解明に関する先駆的研究	大上 博史	口腔インプラント診療科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
TMEM16E遺伝子欠損マウスをホストとした特異的モノクローナル抗体の開発	久保薗 和美	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
TMEM16E蛋白分解制御機構と機能の解明	水田 邦子	口腔顎顔面再建外科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト口腔扁平上皮癌幹細胞におけるCSK3βの発現及び機能解析	重石 英生	口腔顎顔面再建外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
血管作動性小腸ペプチドの口腔粘膜創傷治癒、炎症制御機能の解明と治療薬としての応用	福井 暁子	口腔顎顔面再建外科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌のEMTを介した局所浸潤機構の解明	東川 晃一郎	口腔顎顔面再建外科	2,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口腔癌のEMT強度制御マーカーの同定	石田 扶美(田中扶美)	口腔顎顔面再建外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌のEMT誘導調節機構の解明	島末 洋	口腔顎顔面再建外科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔粘膜細胞から誘導されるヘムオキシゲナーゼ-1の機能とカンジダ症における意義	太田 耕司	口腔顎顔面再建外科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨芽細胞-連通多孔体ハイドロキシアパタイト複合体による顎骨再建治療の確立	武知 正晃	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規EMT関連遺伝子MTDHが誘導する口腔扁平上皮癌の浸潤機構の解析	小野 重弘	口腔顎顔面再建外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
多孔質セラミックスを用いた高機能培養骨の骨形成メカニズムの解明と臨床応用への検討	多田 美里(平岡美里)	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
唾液腺癌幹細胞における転写因子NR4A2を介した抗癌剤抵抗性のメカニズムの解析	石岡 康希	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
薬物徐放制御能を有する次世代型人工骨としてのインテリジェントマテリアルの開発	二宮 嘉昭	口腔顎顔面再建外科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨代謝阻害薬のVEGFR2を介したVEGF-VEGFRシグナルの制御機構の解明	中川 貴之	口腔顎再建外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ジルコニアの応用範囲拡大に向けた新規微小維持の開発	下江 宰司	口腔健康科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト多能性肝細胞由来神経堤細胞を用いた歯科用新素材の安全性評価系の開発	二川 浩樹	口腔健康科	200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
個体別力学的シミュレーションに基づいた補綴装置デザインの最適化	田地 豪	口腔健康科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔内圧測定を用いた吸引・嚥下能力診断システムの確立－安全な摂食嚥下を目指して－	深田 恵里	口腔健康科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔扁平上皮癌におけるHPV-16E6遺伝子による癌幹細胞形質の獲得機構の解明	杉山 勝	口腔健康科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
在宅で療養する慢性心不全患者の自己管理と患者を支える家族の支援に向けた実態調査	二井谷 真由美	口腔健康科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
水素化テトラヘドラルアモルファスカーボンの骨芽細胞および破骨細胞分化に与える影響	二川 浩樹	口腔健康科	2,800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
乳酸菌由来因子による歯周およびインプラント周囲炎症コントロール	二川 浩樹	口腔健康科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
TLR2経路を介したred complex歯性感染のNASH病態増悪機構の解明	古庄 寿子	口腔検査センター	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨粗鬆症治療薬であるビタミンD誘導体(ED-71)を用いた口腔癌治療の開発研究	新谷 智章	口腔検査センター	2,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯周炎の誘導する早産発症過程におけるGalectin-3の役割に関する総合的研究	宮内 睦美	口腔検査センター	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
患者の地域・コミュニティー(異文化)的背景に基づく医療コミュニケーション教育	小川 哲次	口腔総合診療科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔粘膜細胞のDNA認識機構の解明と口腔粘膜炎症の調節	西 裕美	口腔総合診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
DPP/DMP-1ハイブリッド組み換えタンパク質を利用した硬組織再生法の樹立	峯岡 茜	歯科保存診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
NF-κB阻害因子MTI-IIを用いた炎症制御による歯髄・根尖歯周組織再生法の開発	土屋 志津	歯科保存診療科	1,883,516	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯髄・根突尖歯周組織に生じた炎症の即時診断及び局所的な炎症制御・再生誘導療法の開発	土屋 志津	歯科保存診療科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
歯髄細胞特異的因子によるマクロファージからのTNF-α発現誘導機構の解明	永安 慎太郎	歯科保存診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯内疾患の再生治療剤としての再生3要素球状複合体の有用性	柴 秀樹	歯科保存診療科	3,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規同定した長鎖非翻訳RNAによる歯髄細胞増殖・分化誘導機序の解明	鈴木 茂樹	歯科保存診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
組み替えDPPタンパク質を利用した硬組織再生誘導法の確立	小武家 誠司	歯科保存診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
下行性鎮痛系の増強を応用した新しい全身麻酔法の開発:5-HT受容体リガンドの活用	入船 正浩	歯科麻酔科	350,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔顔面部神経障害性疼痛の発症機序の解明とその治療法の確立	吉田 充広	歯科麻酔科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肥満コントロールのための褐色脂肪細胞研究	大植 香菜	歯科麻酔科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
BDNFの細胞増殖、細胞死促進という二面性を用いた非外科的歯周組織再生療法の開発	柏井 桂	歯周診療科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Micro RNAプロファイルを基にしたオーダーメイド歯周組織再生治療法の確立	岩田 倫幸	歯周診療科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
NR4A1を標的とした薬物性歯肉増殖症の新しい治療法開発のための基礎研究	松田 真司	歯周診療科	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
がん細胞が産生する新規鎮痛ペプチドの同定と鎮痛機序の解明、新しい疼痛治療戦略	本山 直世	歯周診療科	200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
プロバイオティクスを利用した歯周病原細菌によるバクテレミア予防のための基礎的研究	栗原 英見	歯周診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
マクロファージを標的とした脳由来神経栄養因子による歯周炎治療の基礎研究	武田 克浩	歯周診療科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
家族性侵襲性歯周炎の関連遺伝子同定と病態解析	水野 智仁	歯周診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
球状骨髄間葉系幹細胞集塊から3D構築された立体組織移植による歯周組織再生療法開発	栗原 英見	歯周診療科	3,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯周病原細菌によって誘導される免疫複合体およびエクソソームの関節リウマチへの影響	山川 真宏	歯周診療科	1,900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯肉上皮細胞機能制御による歯周病原細菌全身移行への抑制効果の検討	藤田 剛	歯周診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
歯肉接合上皮ラングルハンス細胞と上皮バリアとの関連性に着目した抗原捕捉機序の解明	吉本 哲也	歯周診療科	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
難治性疼痛における血小板活性化因子合成酵素の役割と治療戦略・歯科領域への応用	本山 直世	歯周診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
難治性疼痛の発症と維持機構におけるmiRNA/TLR系の役割,新規治療戦略の開拓	本山 直世	歯周診療科	400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性関節リウマチ関連新規因子LRG1の歯周炎における役割	應原 一久	歯周診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
免疫調節能を向上させた間葉系幹細胞集塊を利用する他家移植歯周組織再生療法の開発	竹下 慶	歯周診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
MSX1遺伝子による歯髄幹細胞の骨芽細胞／象牙芽細胞分化制御の解明	五藤 紀子	小児歯科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口呼吸小児における口唇閉鎖訓練の有効性の検討とスクリーニング法の確率	海原 康孝	小児歯科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨miRNAを標的とした癌の骨転移抑制の試み	南崎 朋子	小児歯科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
摂食嚥下障害を有する小児におけるPAPの有効性および口腔内細菌に与える影響	太刀掛 銘子	小児歯科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
幼若期ストレスが脳発達期に及ぼす影響へのドパミン神経系の係わり	光畑 智恵子	小児歯科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
齲蝕原因菌のグローバルレギュレーションシステムに関与する新規遺伝子制御機構の解明	香西 克之	小児歯科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
インテリジェント人工骨を用いる骨質改善療法の確立	土井 一矢	咬合・義歯診療科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
オートファジーを介した黄色ブドウ球菌排除の分子基盤解明	原田 佳枝	咬合・義歯診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ドーパミンを用いた新規接着性プライマーの開発	栖 博紀	咬合・義歯診療科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病病態おける骨リモデリング制御型人工骨による骨再生療法の確立	牧原 勇介	咬合・義歯診療科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
連通ハニカム構造を付与したポーラスチタンを用いる新規バイオマテリアルの創製	森田 晃司	咬合・義歯診療科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
cいた腸型・胃型胃癌モデルの樹立	坂本 直也	病理診断科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
癌幹細胞をターゲットとする食道癌・胃癌の診断マーカー・治療標的の同定と応用	安井 弥	病理診断科	4,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
胸膜肉腫型中皮腫の網羅的遺伝子発現解析に基づく病理鑑別診断への応用	武島 幸男	病理診断科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
消化管癌の組織学的多様性と超保存領域T-UCRからみた分子機構の解明と診断応用	仙谷 和弘	病理診断科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
分泌型T-UCR非翻訳RNAの消化管癌・泌尿器癌リキッドバイオプシーへの応用	安井 弥	病理診断科	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
iPS細胞を用いたミトコンドリアDNA維持機構の破綻と神経変性への関与	森野 豊之	遺伝子診療部	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子改変マウスを用いたNBS1蛋白C末ドメインによるゲノム安定化機構の解析	松浦 伸也	遺伝子診療部	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	松浦 伸也	遺伝子診療部	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
分裂期チェックポイントを利用した21トリソミー治療法の開発	松浦 伸也	遺伝子診療部	3,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
分裂期チェックポイント異常による早老症発症におけるテロメア不安定性の関与	松浦 伸也	遺伝子診療部	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
視覚障害者のWebアクセシビリティを保証する医療機関標準Webページの要件定義	田中 武志	医療情報部	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
利用者行動分析に基づく、電子カルテの真正性・医療安全阻害要因の抽出と改善	津久間 秀彦	医療情報部	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
離散Bayes識別理論による個別化医療のための肝癌再発予測	飯塚 徳男	漢方診療センター	10,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
NICUに入院した子どもをもつ母親への次子妊娠に関する情報提供冊子の開発と評価	舩場 友木	看護部	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
がん患者の意思決定を支える看護者の役割と倫理教育	梶原 弘平	看護部	30,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ダイナミック・マイクロシュミレーションモデルの拡散とその社会保障制度改革への応用	森山 美知子	看護部	2,153,763	補 委	文部科学省科学研究費補助金
プロジェクト学習とポートフォリオを活用した能力獲得型助産教育方法の開発	大平 光子	看護部	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
円滑な臓器提供を実現するためのオプション提示法の開発	新宮 美穂	看護部	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発	宮下 美香	看護部	400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高齢者の特性と家庭内転倒リスクを考慮した衣服型ウェアラブル端末の開発と検証	梶原 弘平	看護部	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高齢乳がん患者における化学療法もしくは内分泌療法に関連した認知機能障害の縦断調査	宮下 美香	看護部	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
質と財政の両立を目指した医療制度構築のための基盤研究	森山 美知子	看護部	300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
社会的公正感を用いたパワーハラスメントのマネジメントに関する研究	佐藤 陽子	看護部	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
睡眠障害を中心課題とした慢性疾患セルフマネジメントプログラムの構築と有効性の検討	森山 美知子	看護部	4,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
地域における高度なケースマネジメントを要する患者の抽出・介入システムの構築	森山 美知子	看護部	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
妊娠葛藤に直面した女性の意思決定を支えるケアガイドラインの開発	大平 光子	看護部	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
認知症高齢者の在宅介護者の介護認識が在宅介護に及ぼす影響	梶原 弘平	看護部	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
不育症夫婦におけるパートナーシップ構築への看護援助モデルの開発	大平 光子	看護部	100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
母親の搾乳量に応じた高カロリー母乳採取法の開発と評価	藤本 紗央里	看護部	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性心不全の急性増悪期にある認知症患者の円滑な治療・ケアに向けた援助方法の標準化	森山 美知子	看護部	30,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
血圧カフを用いた無侵襲・低コストの輸液反応性モニターの開発	中村 隆治	手術部	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
間質性肺炎急性増悪の人種差および好中球転写因子を用いた多角的病態解明と治療開発	大下 慎一郎	集中治療部	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
災害時における衛星通信を利用したドローンの有効活用	貞森 拓磨	集中治療部	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Blastocyst complementation法を用いた骨格幹細胞の産生	伊藤 日加瑠	神経生物学	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Dual Energy CTを使用した造影剤特定及び線量計算システムの構築	河原 大輔	診療支援部	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高齢糖尿病患者の膝伸展筋力の縦断調査とロコモを予防する運動療法プログラムの確立	河江 敏広	診療支援部	200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ストレス関連疾患の発症に寄与する勤務状況の因子とその影響に関する研究 －健康に最適な労働時間は存在するのか？－	飛田 英祐	総合医療研究推進センター	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒストンバリアントH3.3をターゲットとした、腎線維化に対する治療方法の確立	佐々木 健介	総合医療研究推進センター	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
希少疾病用医薬品等の開発における検証的試験デザインと統計解析に関する研究	飛田 英祐	総合医療研究推進センター	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規生活習慣修正食による降圧効果の検証と血圧変動性に対する探索的研究	梅本 誠治	総合医療研究推進センター	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
高輝度小型パターン光源を用いた3次元内視鏡の開発と人体消化器官計測の試み	田中 信治	内視鏡診療科	50,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
消化器系悪性腫瘍検出のための高感度自家蛍光イメージング技術の開発	田中 信治	内視鏡診療科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
microRNAによる腱・靭帯成熟機構の解明と靭帯特異的分子の探索	味八木 茂	未来医療センター	1,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ケモカインCXCL9/CXCR3経路に基づく肝臓内NK細胞活性化機構の解明	大平 真裕	未来医療センター	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヘリコバクター・ピロリ菌除菌後胃癌の克服に向けて	卜部 祐司	未来医療センター	2,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔顎顔面のエックス線画像指標を統合した新規骨粗鬆症スクリーニングシステムの構築	東 幸仁	未来医療センター	200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規情報伝達因子エクソソームによる変形性関節症治療と診断への展開とその機能解析	味八木 茂	未来医療センター	14,900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
動脈硬化性疾患における色素上皮由来因子(PEDF)の役割	梶川 正人	未来医療センター	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
アルデヒドデヒドロゲナーゼを標的とした新規小胞体ストレス関連疾患治療戦略	小澤 孝一郎	薬剤部	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
シタラビンによる斑状丘疹性皮疹とSTAT3関連遺伝子発現プロファイルの解析	大松 秀明	薬剤部	570,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
メトトレキサート誘発性肺障害に対する葉酸の有用性の再評価と経肺投与法への応用展開	川見 昌史	薬剤部	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
感染治療における薬物－病原体－宿主免疫の3者相互関連性の解明に基づく治療法最適化	猪川 和朗	薬剤部	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
抗原の消化管透過性から見た食物アレルギー発症機序の解明	松尾 裕彰	薬剤部	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
食物抗原の吸収と食物アレルギーの感作を増強する因子の探索とその機構の解析	横大路 智治	薬剤部	2,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
生体内因子・細胞間相互作用を介した小胞体ストレスと生活習慣病形成機構解明と創薬	細井 徹	薬剤部	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
標的臓器の治療目標達成確率を指標とした抗菌剤治療の最適化法の確立	森川 則文	薬剤部	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
薬局・在宅における濾紙血マイクロTDMの実践：ゲノム薬理学的アプローチの基盤構築	池田 佳代	薬剤部	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	藤井 輝久	輸血部	6,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子編集技術を用いた新規ゼブラフィッシュ造血幹細胞移植モデルの確立	井上 暢子	輸血部	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
13トリソミー症候群における繊毛病発症機構の解明	宮本 達雄	大学院医歯薬保健学研究科・放射線ゲノム疾患	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
C末欠損セロトニントランスポーターをセンサーとした新規シャペロン機構の同定と応用	酒井 規雄	大学院医歯薬保健学研究科・神経薬理学	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Foxp3遺伝子多型と細胞内シグナル解析による臓器移植の制御性T細胞応答の解明	田中 友加	大学院医歯薬保健学研究科・消化器・移植外科学	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
WHO国際分類改訂に向けたアジアにおける歯原性腫瘍の戦略的大規模調査	高田 隆	理事・副学長，口腔顎顔面病理病態学	5,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
あるがままの無拘束歩行運動時にみられる大脳皮質脳活動を可視化する	松川 寛二	大学院医歯薬保健学研究科・生理機能情報科学	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ウイルス感染は筋萎縮性側索硬化症(ALS)の発症に関与するか？	福士 雅也	大学院医歯薬保健学研究科・ウイルス学	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
う蝕原因菌由来新規アセチル化酵素の機能解析とう蝕予防への展開	林 幾江	大学院医歯薬保健学研究科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ストレス応答性TMEM16E安定化と局在化による迅速な膜修復機構の解明	飛梅 圭	大学院医歯薬保健学研究科・粘膜免疫学	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ラクトフェリンの抗破骨細胞形成部位の決定と骨破壊性病変に対するペプチド医薬の開発	高田　隆	理事・副学長，口腔顎顔面病理病態学	5,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体ストレスが関わる難治性神経疾患の克服を目指した膜輸送活性化薬物の検索と応用	酒井　規雄	大学院医歯薬保健学研究科・神経薬理学	5,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
神経一角膜上皮一角膜実質細胞3者共培養システムの開発及び角膜機能維持機構の解明	高 知愛	大学院医歯薬保健学研究科・視覚病態学	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
中性子捕捉療法のホウ素担体としての標的アデノウイルスベクターの確立	濱　聖司	大学院医歯薬保健学研究科・脳神経外科学	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
特殊心筋の発生分化制御機構	小久保　博樹	大学院医歯薬保健学研究科・心臓血管生理医学	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

小計5
総計330

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kiuchi Y		眼科	KRAS mutation leads to decreased expression of regulator of calcineurin 2, resulting in tumor proliferation in colorectal cancer	Clin Ophthalmol. 2017 Mar 31;11:591-597. doi: 10,2147	Original Article
2	Ichinohe T		血液内科	A multicenter phase 2 study of pomalidomide plus dexamethasone in patients with relapsed and refractory multiple myeloma: the Japanese MM-011 trial	Exp Hematol Oncol. 2016 Apr 18;5:11. doi: 10.1186	Original Article
3	Ichinohe T, Matsui H		血液内科	Biological implications of somatic DDX41 p.R525H mutation in acute myeloid leukemia	Exp Hematol. 2016 Aug;44(8):745-754.e4. doi: 10.1016	Original Article
4	Mihara K		血液内科	All-trans retinoic acid enhances cytotoxic effect of T cells with an anti-CD38 chimeric antigen receptor in acute myeloid leukemia	Clin Transl Immunology. 2016 Dec 9;5(12):e116. doi: 10.1038	Original Article
5	Hamai Y, Hihara J		原医研腫瘍外科	Ability of Fluorine-18 Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography to Predict Outcomes of Neoadjuvant Chemoradiotherapy Followed by Surgical Treatment for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Ann Thorac Surg. 2016 Oct;102(4):1132-9. doi: 10.1016	Original Article
6	Taito S, Shime N		高度救命救急センター	Early mobilization of mechanically ventilated patients in the intensive care unit	J Intensive Care. 2016 Jul 29;4:50. doi: 10.1186	Original Article
7	Shime N		高度救命救急センター	Successful treatment of traumatic spinal epidural haematoma with fluoroscopically-guided percutaneous drainage: a report of two cases	Anaesth Intensive Care. 2016 Nov;44(6):777-780.	Original Article
8	Kyo M, Ohshimo S		高度救命救急センター	Pediatric cardiorespiratory failure successfully managed with venoarterial-venous extracorporeal membrane oxygenation: a case report	BMC Pulm Med. 2016 Aug 12;16(1):119. doi: 10.1186	Original Article
9	Hihara J, Okada M		呼吸器外科	Role of definitive chemoradiotherapy using docetaxel and 5-fluorouracil in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma: a phase II study	Dis Esophagus. 2016 Nov;29(8):1115-1120. doi: 10.1111	Original Article
10	Okada M		呼吸器外科	Ability of contrast-enhanced ultrasonography to determine clinical responses of breast cancer to neoadjuvant chemotherapy	Jpn J Clin Oncol. 2016 Apr;46(4):303-9. doi: 10.1093	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
11	Masumoto N, Okada M		呼吸器外科	EVALUATION OF MALIGNANCY GRADE OF BREAST CANCER USING PERFLUBUTANE-ENHANCED ULTRASONOGRAPHY	Ultrasound Med Biol. 2016 May;42(5):1049-57. doi: 10.1016	Original Article
12	Okada M		呼吸器外科	Prognostic Role of Subtype Classification in Small-Sized Pathologic N0 Invasive Lung Adenocarcinoma	Ann Thorac Surg. 2016 Nov;102(5):1668-1673. doi: 10.1016	Original Article
13	Mimae T, Okada M		呼吸器外科	Severity of lung fibrosis affects early surgical outcomes of lung cancer among patients with combined pulmonary fibrosis and emphysema	Medicine (Baltimore). 2016 Jul;95(29):e4314. doi: 10.1097	Original Article
14	Okada M		呼吸器外科	Prognostic significance of vascular invasion in intermediate-grade subtype of lung adenocarcinoma	Jpn J Clin Oncol. 2016 Aug 27	Original Article
15	Tsubokawa N		呼吸器外科	Prognostic significance of vascular invasion in intermediate-grade subtype of lung adenocarcinoma	Jpn J Clin Oncol. 2016 Aug 27	Original Article
16	Takayama Y, Hattori N		呼吸器内科	Inhibition of PAI-1 Limits Tumor Angiogenesis Regardless of Angiogenic Stimuli in Malignant Pleural Mesothelioma	Cancer Res. 2016 Jun 1;76(11):3285-94. doi: 10.1158	Original Article
17	Iwamoto H		呼吸器内科	Long-term pulmonary complications of chemical weapons exposure in former poison gas factory workers	Inhal Toxicol. 2016 Jul;28(8):343-8. doi: 10.3109	Original Article
18	Iwamoto H		呼吸器内科	Clinically remitted childhood asthma is associated with airflow obstruction in middle-aged adults	Respirology. 2017 Jan;22(1):86-92. doi: 10.1111	Original Article
19	Miyoshi H		産科婦人科	Enhanced Expression of Contractile-Associated Proteins and Ion Channels in Preterm Delivery Model Mice With Chronic Odontogenic Porphyromonas Gingivalis Infection	Reprod Sci. 2016 Jul;23(7):838-46. doi: 10.1177	Original Article
20	Nobuzane T		産科婦人科	Survey of prenatal testing for genetic disorders in Japan: Recent report	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Apr;42(4):375-9. doi: 10.1111	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
21	Kidani Y		産科婦人科	The therapeutic effect of CD133(+) cells derived from human umbilical cord blood on neonatal mouse hypoxic-ischemic encephalopathy model	Life Sci. 2016 Jul 15;157:108-15. doi: 10.1016	Original Article
22	Takumida M		耳鼻咽喉科	Localization of histamine (H-1, H-2, H-3 and H-4) receptors in mouse inner ear	Acta Otolaryngol. 2016 Jun;136(6):537-44. doi: 10.3109	Original Article
23	Kurisu S		循環器内科	Effects of left ventricular size on the accuracy of diastolic parameters derived from myocardial perfusion SPECT: comparison with tissue Doppler echocardiography	Ann Nucl Med. 2016 Nov;30(9):645-651. Epub 2016 Aug 2.	Original Article
24	Kurisu S		循環器内科	Impact of Malondialdehyde- Modified Low-Density Lipoprotein on Tissue Characteristics in Patients With Stable Coronary Artery Disease - Integrated Backscatter-Intravascular Ultrasound Study	Circ J. 2016 Sep 23;80(10):2173-82. doi: 10.1253	Original Article
25	Nakano Y,Kihara Y		循環器内科	Genetic variations of aldehyde dehydrogenase 2 and alcohol dehydrogenase 1B are associated with the etiology of atrial fibrillation in Japanese	J Biomed Sci. 2016 Dec 7;23(1):89.	Original Article
26	Dohi Y		循環器内科	Non-suppressive regulatory T cell subset expansion in pulmonary arterial hypertension	Heart Vessels. 2016 Aug;31(8):1319-26. doi: 10.1007	Original Article
27	Dohi Y		循環器内科	Clinical value of regression of electrocardiographic left ventricular hypertrophy after aortic valve replacement	Heart Vessels. 2016 Sep;31(9):1497-503. doi: 10.1007	Original Article
28	Nakano Y		循環器内科	Risk stratification of ventricular fibrillation in Brugada syndrome using noninvasive scoring methods	Heart Rhythm. 2016 Oct;13(10):1947-54. doi: 10.1016	Original Article
29	Suenari K		循環器内科	Usefulness of HATCH score in the prediction of new-onset atrial fibrillation for Asians	Medicine (Baltimore). 2017 Jan;96(1):e5597. doi: 10.1097	Original Article
30	Hidaka T		循環器内科	Mitral systolic velocity at peak exercise predicts impaired exercise capacity in patients with heart failure with preserved ejection fraction	Echocardiography. 2017 Feb;34(2):217-225. doi: 10.1111	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
31	Kawaoka T,Chayama K		消化器・代謝内科	Three patients treated with daclatasvir and asunaprevir for recurrent hepatitis C after liver transplantation: Case report	Hepatol Res. 2016 Jun;46(7):707-12. doi: 10.1111	Original Article
32	Chayama K		消化器・代謝内科	Daclatasvir and asunaprevir treatment improves liver function parameters and reduces liver fibrosis markers in chronic hepatitis C patients	Hepatol Res. 2016 Jul;46(8):758-64. doi: 10.1111	Original Article
33	Tsuge M, Chayama K		消化器・代謝内科	Improvement of renal dysfunction in a patient with hepatitis C virus-related liver cirrhosis by daclatasvir and asunaprevir combination therapy: A case report	Hepatol Res. 2016 Aug;46(9):944-8. doi: 10.1111	Original Article
34	Kitadai Y		消化器・代謝内科	Multikinase inhibitor regorafenib inhibits the growth and metastasis of colon cancer with abundant stroma	Cancer Sci. 2016 May;107(5):601-8. doi: 10.1111	Original Article
35	HAYES CLAIR NELSON, Chayama K		消化器・代謝内科	HBV culture and infectious systems	Hepatol Int. 2016 Jul;10(4):559-66. doi: 10.1007	Original Article
36	Tsuge M, Chayama K		消化器・代謝内科	Antiviral effects of anti-HBs immunoglobulin and vaccine on HBs antigen seroclearance for chronic hepatitis B infection	J Gastroenterol. 2016 Nov;51(11):1073-1080. Epub 2016 Mar 4.	Original Article
37	Chayama K		消化器・代謝内科	IFNL4 polymorphism effects on outcome of simeprevir, peginterferon, and ribavirin therapy for older patients with genotype 1 chronic hepatitis C	Hepatol Res. 2017 Mar;47(3):E5-E13. doi: 10.1111	Original Article
38	Chayama K		消化器・代謝内科	Hepatitis C virus dynamics and cellular gene expression in uPA-SCID chimeric mice with humanized livers during intravenous silibinin monotherapy	J Viral Hepat. 2016 Sep;23(9):708-17. doi: 10.1111	Original Article
39	Chayama K		消化器・代謝内科	The relationship between HBcrAg and HBV reinfection in HBV related post-liver transplantation patients	J Gastroenterol. 2017 Mar;52(3):366-375. doi: 10.1007	Original Article
40	HAYES CLAIR NELSON, Chayama K		消化器・代謝内科	Interferon Stimulated Genes and Innate Immune Activation Following Infection With Hepatitis B and C Viruses	J Med Virol. 2017 Mar;89(3):388-396. doi: 10.1002	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
41	Chayama K		消化器・代謝内科	Real-world efficacy and safety of daclatasvir and asunaprevir therapy for hepatitis C virus-infected cirrhosis patients	J Gastroenterol Hepatol. 2017 Mar;32(3):645-650. doi: 10.1111	Original Article
42	Chayama K		消化器・代謝内科	Protease Inhibitor Resistance Remains Even After Mutant Strains Become Undetectable by Deep Sequencing	J Infect Dis. 2016 Dec 1;214(11):1687-1694. Epub 2016 Sep 20.	Original Article
43	Chayama K		消化器・代謝内科	Highly multiplexed CRISPR-Cas9-nuclease and Cas9-nickase vectors for inactivation of hepatitis B virus	Genes Cells. 2016 Nov;21(11):1253-1262. doi: 10.1111	Original Article
44	HAYES CLAIR NELSON, Chayama K		消化器・代謝内科	The practical management of chronic hepatitis C infection in Japan - dual therapy of daclatasvir plus asunaprevir	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2017 Feb;11(2):103-113. doi: 10.1080	Original Article
45	Chayama K		消化器・代謝内科	Interferon alpha treatment stimulates interferon gamma expression in type I NKT cells and enhances their antiviral effect against hepatitis C virus	PLoS One. 2017 Mar 2;12(3):e0172412. doi: 10.1371	Original Article
46	Kobayashi T, Aikata H		消化器・代謝内科	Preoperative Fluorine 18 Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography for Prediction of Microvascular Invasion in Small Hepatocellular Carcinoma	J Comput Assist Tomogr. 2016 Jul-Aug;40(4):524-30. doi: 10.1097	Original Article
47	Nakano N, Kobayashi T		消化器・代謝内科	Complete response to short-term sorafenib treatment alone for hepatocellular carcinoma with bone, lymph node, and peritoneum metastases	Hepatol Res. 2016 Dec;46(13):1402-1408. doi: 10.1111	Original Article
48	Morio R, Hyogo H		消化器・代謝内科	The risk of transient postprandial oxyhypoglycemia in nonalcoholic fatty liver disease	J Gastroenterol. 2017 Feb;52(2):253-262. doi: 10.1007	Original Article
49	Aikata H		消化器・代謝内科	Comparison of Outcome of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy and Sorafenib in Patients with Hepatocellular Carcinoma Refractory to Transcatheter Arterial Chemoembolization	Anticancer Res. 2016 Jul;36(7):3523-9.	Original Article
50	Chayama K		消化器・代謝内科	Effects of ITPA polymorphism on decrease of hemoglobin during simeprevir, peg-interferon, and ribavirin combination treatment for chronic hepatitis C	Hepatol Res. 2016 Nov;46(12):1256-1263. doi: 10.1111	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
51	Kawakami Y,Chayama K		消化器・代謝内科	Pharmacokinetics, efficacy and safety of daclatasvir plus asunaprevir in dialysis patients with chronic hepatitis C: pilot study	J Viral Hepat. 2016 Nov;23(11):850-856. doi: 10.1111	Original Article
52	Tashiro H		消化器外科	Prediction of long-term survival by using the Glasgow Prognostic Score in patients with hepatocellular carcinoma after liver transplantation	Hepatol Res. 2016 Jun;46(7):622-33. doi: 10.1111	Original Article
53	Murakami Y		消化器外科	Prognostic Impact of Para-Aortic Lymph Node Micrometastasis in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol. 2016 Jun;23(6):2019-27. doi: 10.1245	Original Article
54	Kobayashi T		消化器外科	h-Prune is associated with poor prognosis and epithelial-mesenchymal transition in patients with colorectal liver metastases	Int J Cancer. 2016 Aug 15;139(4):812-23. doi: 10.1002	Original Article
55	Ohdan H, Ide K		消化器外科	Different sensitivity of rituximab-treatment to B-cells between ABO-incompatible kidney and liver transplantation	Hum Immunol. 2016 Jun;77(6):456-63. doi: 10.1016	Original Article
56	Kobayashi T		消化器外科	h-prune affects anaplastic thyroid cancer invasion and metastasis	Oncol Rep. 2016 Jun;35(6):3445-52. doi: 10.3892	Original Article
57	Fujikuni N, Tanabe K		消化器外科	Enhanced recovery program is safe and improves postoperative insulin resistance in gastrectomy	World J Gastrointest Surg. 2016 May 27;8(5):382-8. doi: 10.4240	Original Article
58	Kobayashi T		消化器外科	Efficacy of repeat hepatectomy for recurrence following curative hepatectomy for colorectal liver metastases: A Retrospective Cohort Study of 128 patients	Int J Surg. 2016 Dec;36(Pt A):96-103. doi: 10.1016	Original Article
59	Kobayashi T		消化器外科	Evaluation of the risk factors and prognostic factors of hepatectomy for hepatocellular carcinoma in patients aged 80 years or more	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2017 Jan;24(1):58 64. doi: 10.1002	Original Article
60	Murakami Y		消化器外科	Survival impact of neoadjuvant gemcitabine plus S-1 chemotherapy for patients with borderline resectable pancreatic carcinoma with arterial contact	Cancer Chemother Pharmacol. 2017 Jan;79(1):37-47. doi: 10.1007	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
61	Ohdan H		消化器外科	MELD and Child-Pugh Scores Are Related to Immune Status of Intrahepatic Natural Killer Cells in Liver Transplant Candidates	Transplant Proc. 2017 Jan - Feb;49(1):98-101. doi: 10.1016	Original Article
62	Ibuki Y, Okada M		消化器外科	Preoperative predictors of distant recurrence in patients with clinical stage IA lung adenocarcinoma undergoing complete resection	Jpn J Clin Oncol. 2017 Feb 26;47(2):157-163. doi: 10.1093	Original Article
63	Ito H, Okada M		消化器外科	Second predominant subtype predicts outcomes of intermediate-malignant invasive lung adenocarcinoma	Eur J Cardiothorac Surg. 2017 Feb 1;51(2):218-222. doi: 10.1093	Original Article
64	Sasada S, Okada M		消化器外科	Application of Lepidic Component Predominance to Adjuvant Chemotherapy with Oral Fluoropyrimidines for Stage I Lung Adenocarcinoma	Clin Lung Cancer. 2016 Sep;17(5):433-440.e1. doi: 10.1016	Original Article
65	Hinoi T		消化器外科	Mouse model of proximal colon-specific tumorigenesis driven by microsatellite instability-induced Cre-mediated inactivation of Apc and activation of Kras	J Gastroenterol. 2016 May;51(5):447-57. doi: 10.1007	Original Article
66	Adachi T		消化器外科	Lower body mass index predicts worse cancer-specific prognosis in octogenarians with colorectal cancer	J Gastroenterol. 2016 Aug;51(8):779-87. doi: 10.1007	Original Article
67	Egi H		消化器外科	The usefulness of 3-dimensional endoscope systems in endoscopic surgery	Surg Endosc. 2016 Oct;30(10):4562-8. doi: 10.1007	Original Article
68	Shimomura M		消化器外科	Chemotherapeutic outcomes for metastatic colorectal cancer in elderly patients aged >= 75 years: A single-institutional retrospective analysis	Asia Pac J Clin Oncol. 2016 Jun;12(2):151-8. doi: 10.1111	Original Article
69	Furukawa T, Hamai Y		消化器外科	Clinical Significance of FDG-PET to Predict Pathologic Tumor Invasion and Lymph Node Metastasis of Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Ann Surg Oncol. 2016 Nov;23(12):4086-4092. Epub 2016 Jun 28.	Original Article
70	Hinoi T		消化器外科	KRAS mutation leads to decreased expression of regulator of calcineurin 2, resulting in tumor proliferation in colorectal cancer	Oncogenesis. 2016 Aug 15;5(8):e253. doi: 10.1038	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
71	Akabane S, Ohira M		消化器外科	Intrahepatic cholangiocarcinoma coinciding with a liver metastasis from a rectal carcinoma: a case report	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):94. doi: 10.1186	Original Article
72	Shimada N		消化器外科	Hand-assisted laparoscopic restorative proctocolectomy for ulcerative colitis	World J Gastrointest Surg. 2016 Aug 27;8(8):578-82. doi: 10.4240	Original Article
73	Imaoka Y		消化器外科	Validity of predictive factors of acute complicated appendicitis	World J Emerg Surg. 2016 Sep 26;11:48. eCollection 2016.	Original Article
74	Kondo N		消化器外科	Comparison of the prognostic impact of pre- and post-operative CA19-9, SPan-1, and DUPAN-II levels in patients with pancreatic carcinoma	Pancreatology. 2017 Jan - Feb;17(1):95-102. doi: 10.1016	Original Article
75	Shimomura M		消化器外科	A multi-institutional feasibility study of S-1/oxaliplatin plus bevacizumab in patients with advanced/metastatic colorectal cancer: the HiSCO-02 prospective phase II study	Springerplus. 2016 Oct 18;5(1):1800. eCollection 2016	Original Article
76	Hinoi T		消化器外科	Gasdermin C Is Upregulated by Inactivation of Transforming Growth Factor beta Receptor Type II in the Presence of Mutated Apc, Promoting Colorectal Cancer Proliferation	PLoS One. 2016 Nov 11;11(11):e0166422. doi: 10.1371	Original Article
77	Imaoka Y, Ohira M		消化器外科	Elective laparoscopic deroofing to treat the spontaneous rupture of a large simple liver cyst: a case report	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):148. Epub 2016 Dec 7.	Original Article
78	Ishiyama K		消化器外科	Role of Natural Killer Cells in the Innate Immune System After Intraportal Islet Transplantation in Mice	Transplant Proc. 2017 Jan - Feb;49(1):139-144. doi: 10.1016	Original Article
79	Tajima G		小児科	Screening of MCAD deficiency in Japan: 16 years' experience of enzymatic and genetic evaluation	Mol Genet Metab. 2016 Dec;119(4):322-328. doi: 10.1016	Original Article
80	Okada S		小児科	Chronic mucocutaneous candidiasis disease associated with inborn errors of IL-17 immunity	Clin Transl Immunology. 2016 Dec 2;5(12):e114. doi: 10.1038	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
81	Doi T		小児科	Blue rubber bleb nevus syndrome with knee joint disorder	Pediatr Int. 2016 Aug;58(8):740-3. doi: 10.1111	Original Article
82	Shimomura M		小児科	Effective Treatment of a Childhood Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm with a Cutaneous Tumor Alone by Stem Cell Transplantation with Reduced Intensity Conditioning	Indian J Hematol Blood Transfus. 2016 Jun;32(Suppl 1):26-31. doi: 10.1007	Original Article
83	Sueda T		心臓血管外科	Successful treatment of an infected thoracic endovascular stent graft	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016 May;64(5):273-6. doi: 10.1007	Original Article
84	Imai K		心臓血管外科	Perioperative management for the prevention of bacterial infection in cardiac implantable electronic device placement	J Arrhythm. 2016 Aug;32(4):283-6. doi: 10.1016	Original Article
85	Takahashi S		心臓血管外科	Development of the Maze procedure and the contribution of Japanese surgeons	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Mar;65(3):144-152. doi: 10.1007	Original Article
86	Doi S		腎臓内科	Linagliptin Ameliorates Methylglyoxalinduced Peritoneal Fibrosis in Mice	PLoS One. 2016 Aug 11;11(8):e0160993. doi: 10.1371	Original Article
87	Shimada N		診療支援部	Courses of change in knee adduction moment and lateral thrust differ up to 1 year after TKA	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Aug;24(8):2506-11. doi: 10.1007	Original Article
88	Kawahara D		診療支援部	Availability of applying diaphragm matching with the breath-holding technique in stereotactic body radiation therapy for liver tumors	Phys Med. 2016 Apr;32(4):557-61. doi: 10.1016	Original Article
89	Kawahara D		診療支援部	Absorbed dose and image quality of Varian TrueBeam CBCT compared with OBI CBCT	Phys Med. 2016 Dec;32(12):1628-1633. doi: 10.1016	Original Article
90	Nakao Y		診療支援部	A Comparison of the Corrected Intraocular Pressure Obtained by the Corvis ST and Reichert 7CR Tonometers in Glaucoma Patients	PLoS One. 2017 Jan 17;12(1):e0170206. doi: 10.1371	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
91	Kawahara D		診療支援部	Dosimetric impact of Lipiodol in stereotactic body radiation therapy on liver after trans-arterial chemoembolization	Med Phys. 2017 Jan;44(1):342-348. doi: 10.1002/mp.12028.	Original Article
92	Nishikawa Y		診療支援部	Sex differences in variances of multi-channel surface electromyography distribution of the vastus lateralis muscle during isometric knee extension in young adults	Eur J Appl Physiol. 2017 Mar;117(3):583-589. doi: 10.1007	Original Article
93	Kubo T		整形外科	Prognostic significance of F-18-FDG PET at diagnosis in patients with soft tissue sarcoma and bone sarcoma; systematic review and meta-analysis	Eur J Cancer. 2016 May;58:104-11. doi: 10.1016	Original Article
94	Shoji T		整形外科	Anterior Inferior Iliac Spine Bone Morphology in Hip Dysplasia and Its Effect on Hip Range of Motion in Total Hip Arthroplasty	J Arthroplasty. 2016 Sep;31(9):2058-63. doi: 10.1016	Original Article
95	Kubo T		整形外科	Percent slope analysis of dynamic magnetic resonance imaging for assessment of chemotherapy response of osteosarcoma or Ewing sarcoma: systematic review and meta-analysis	Skeletal Radiol. 2016 Sep;45(9):1235-42. doi: 10.1007/	Original Article
96	Ishikawa M		整形外科	Unique Anatomic Feature of the Posterior Cruciate Ligament in Knees Associated With Osteochondritis Dissecans	Orthop J Sports Med. 2016 May 27;4(5):2325967116648138 . doi: 10.1177	Original Article
97	Nakasa T		整形外科	Attenuation of cartilage degeneration by calcitonin gene-related peptide receptor antagonist via inhibition of subchondral bone sclerosis in osteoarthritis mice	J Orthop Res. 2016 Jul;34(7):1177-84. doi: 10.1002	Original Article
98	Shinomiya R		整形外科	IMPACT OF CORTICOSTEROID INJECTION SITE ON THE TREATMENT SUCCESS RATE OF TRIGGER FINGER: A PROSPECTIVE STUDY COMPARING ULTRASOUND-GUIDED TRUE INTRA-SHEATH AND TRUE EXTRA-SHEATH INJECTIONS	Ultrasound Med Biol. 2016 Sep;42(9):2203-8. doi: 10.1016	Original Article
99	Furuta T		整形外科	Mesenchymal Stem Cell-Derived Exosomes Promote Fracture Healing in a Mouse Model	Stem Cells Transl Med. 2016 Dec;5(12):1620 1630. Epub 2016 Jul 26.	Original Article
100	Kamei N		整形外科	The Use of Endothelial Progenitor Cells for the Regeneration of Musculoskeletal and Neural Tissues	Stem Cells Int. 2017;2017:1960804. doi: 10.1155	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
101	Takagaki K, Okamoto Y		精神科	Behavioral activation for late adolescents with subthreshold depression: a randomized controlled trial	Eur Child Adolesc Psychiatry. 2016 Nov;25(11):1171-1182. Epub 2016 Mar 22.	Original Article
102	Takagaki K, Okamoto Y		精神科	Mechanisms of behavioral activation for late adolescents: Positive reinforcement mediate the relationship between activation and depressive symptoms from pre-treatment to post-treatment	J Affect Disord. 2016 Nov 1;204:70-3. doi: 10.1016	Original Article
103	Yamawaki S		精神科	Factors associated with relapse after a response to electroconvulsive therapy in unipolar versus bipolar depression	J Affect Disord. 2017 Jan 15;208:113-119. doi: 10.1016	Original Article
104	Jinnin R, Okamoto Y		精神科	Detailed course of depressive symptoms and risk for developing depression in late adolescents with subthreshold depression: a cohort study	Neuropsychiatr Dis Treat. 2016 Dec 22;13:25-33. doi: 10.2147	Original Article
105	Okamoto Y		精神科	Increased amygdala reactivity following early life stress: a potential resilience enhancer role	BMC Psychiatry. 2017 Jan 18;17(1):27. doi: 10.1186	Original Article
106	Yamawaki S		精神科	Altered Serum Levels of Matrix Metalloproteinase-2,-9 in Response to Electroconvulsive Therapy for Mood Disorders	Int J Neuropsychopharmacol. 2016 Aug 31;19(9). pii: pyw019. doi: 10.1093	Original Article
107	Kobayakawa M		精神科	Family caregivers require mental health specialists for end-of-life psychosocial problems at home: a nationwide survey in Japan	Psychooncology. 2016 Jun;25(6):641-7. doi: 10.1002	Original Article
108	Tazuma S		総合診療科	Enhancing hepatic fibrosis in spontaneously hypertensive rats fed a choline-deficient diet: a follow-up report on long-term effects of oxidative stress in non-alcoholic fatty liver disease	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 May;23(5):260-9. doi: 10.1002	Original Article
109	Tazuma S		総合診療科	Evidence-based clinical practice guidelines for cholelithiasis 2016	J Gastroenterol. 2017 Mar;52(3):276-300. doi: 10.1007	Original Article
110	Yokobayashi K		総合診療科	Association between Social Relationship and Glycemic Control among Older Japanese: JAGES Cross-Sectional Study	PLoS One. 2017 Jan 6;12(1):e0169904. doi: 10.1371	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
111	Sugiyama A, Kanno K		総合診療科	Periostin promotes hepatic fibrosis in mice by modulating hepatic stellate cell activation via alpha(v) integrin interaction	J Gastroenterol. 2016 Dec;51(12):1161-1174. Epub 2016 Apr 4.	Original Article
112	Oka S		内視鏡診療科	Long-term outcomes after treatment for pedunculated-type T1 colorectal carcinoma: a multicenter retrospective cohort study	J Gastroenterol. 2016 Jul;51(7):702-10. doi: 10.1007	Original Article
113	Oka S		内視鏡診療科	Clinical significance and validity of the subclassification for colorectal laterally spreading tumor granular type	J Gastroenterol Hepatol. 2016 May;31(5):973-9. doi: 10.1111/jgh.13238.	Original Article
114	Oka S		内視鏡診療科	Risk factors for esophageal stenosis after entire circumferential endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal squamous cell carcinoma	Surg Endosc. 2016 Sep;30(9):4049-56. doi: 10.1007	Original Article
115	Oka S		内視鏡診療科	Long-term prognosis after endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in super-elderly patients	Surg Endosc. 2016 Oct;30(10):4321-9. doi: 10.1007	Original Article
116	Oka S		内視鏡診療科	Endoscopic submucosal dissection for anorectal tumor with hemorrhoids close to the dentate line: a multicenter study of Hiroshima GI Endoscopy Study Group	Surg Endosc. 2016 Oct;30(10):4425-31. doi: 10.1007	Original Article
117	Oka S		内視鏡診療科	Polidocanol injection therapy for small-bowel hemangioma by using double-balloon endoscopy	Gastrointest Endosc. 2016 Jul;84(1):163-7. doi: 10.1016	Original Article
118	Oka S		内視鏡診療科	Useful condition of chromoendoscopy with indigo carmine and acetic acid for identifying a demarcation line prior to endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer	BMC Gastroenterol. 2016 Jul 19;16(1):72. doi: 10.1186	Original Article
119	Oka S		内視鏡診療科	Long-term outcomes after endoscopic submucosal dissection for superficial colorectal tumors	Gastrointest Endosc. 2017 Mar;85(3):546 553. doi: 10.1016	Original Article
120	Oka S		内視鏡診療科	Clinical usefulness of a single-use splinting tube for poor endoscope operability in deep colonic endoscopic submucosal dissection	Endosc Int Open. 2016 Jun;4(6):E614-7. doi: 10.1055	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
121	Oka S		内視鏡診療科	Clinical impact of dual red imaging in colorectal endoscopic submucosal dissection: a pilot study	Therap Adv Gastroenterol. 2016 Sep;9(5):679-83. doi: 10.1177	Original Article
122	Oka S		内視鏡診療科	Clinical usefulness of narrow band imaging magnifying colonoscopy for assessing ulcerative colitis-associated cancer/dysplasia	Endosc Int Open. 2016 Nov;4(11):E1183-E1187.	Original Article
123	Oka S		内視鏡診療科	Evaluation for the Clinical Efficacy of Colon Capsule Endoscopy in the Detection of Laterally Spreading Tumors	Digestion. 2017;95(1):43-48. doi: 10.1159	Original Article
124	Hayashi R		内視鏡診療科	Reduced Human alpha-defensin 6 in Noninflamed Jejunal Tissue of Patients with Crohn's Disease	Inflamm Bowel Dis. 2016 May;22(5):1119-28. doi: 10.1097	Original Article
125	Ueno Y		内視鏡診療科	Choline Deficiency Causes Colonic Type II Natural Killer T (NKT) Cell Loss and Alleviates Murine Colitis under Type I NKT Cell Deficiency	PLoS One. 2017 Jan 17;12(1):e0169681. doi: 10.1371	Original Article
126	Urabe Y		内視鏡診療科	ADH1B and ALDH2 are associated with metachronous SCC after endoscopic submucosal dissection of esophageal squamous cell carcinoma	Cancer Med. 2016 Jul;5(7):1397-404. doi: 10.1002	Original Article
127	Oki K		内分泌・糖尿病内科	Gonadotropin-Releasing Hormone Stimulate Aldosterone Production in a Subset of Aldosterone-Producing Adenoma	Medicine (Baltimore). 2016 May;95(20):e3659. doi: 10.1097	Original Article
128	Oki K		内分泌・糖尿病内科	YPEL4 modulates HAC15 adrenal cell proliferation and is associated with tumor diameter	Mol Cell Endocrinol. 2016 Oct 15;434:93-8. doi: 10.1016	Original Article
129	Yoshii Y, Oki K		内分泌・糖尿病内科	Hypomethylation of CYP11B2 in Aldosterone-Producing Adenoma	Hypertension. 2016 Dec;68(6):1432-1437. Epub 2016 Oct 17.	Original Article
130	Kinoshita Y		脳神経外科	Diffusion-weighted imaging and the apparent diffusion coefficient on 3T MR imaging in the differentiation of craniopharyngiomas and germ cell tumors	Neurosurg Rev. 2016 Apr;39(2):207-13; discussion 213. doi: 10.1007	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
131	Kinoshita Y		脳神経外科	Solitary Langerhans cell histiocytosis located in the neurohypophysis with a positive titer HCG-beta in the cerebrospinal fluid	Childs Nerv Syst. 2016 May;32(5):901-4. doi: 10.1007	Original Article
132	Kinoshita Y		脳神経外科	The long-term recurrence of Rathke's cleft cysts as predicted by histology but not by surgical procedure	J Neurosurg. 2016 Oct;125(4):1002-1007. Epub 2016 Jan 15.	Original Article
133	Kinoshita Y		脳神経外科	Clinical features and natural course of acromegaly in patients with discordance in the nadir GH level on the oral glucose test and the IGF-1 value at 3 months after adenomectomy	Neurosurg Rev. 2016 Apr;39(2):313-8; discussion 318-9. doi: 10.1007	Original Article
134	Matsushige T		脳神経外科	Ventricular Microaneurysms in Moyamoya Angiopathy Visualized with 7T MR Angiography	AJNR Am J Neuroradiol. 2016 Sep;37(9):1669-72. doi: 10.3174	Original Article
135	Kinoshita Y		脳神経外科	The Surgical Side Effects of Pseudocapsular Resection in Nonfunctioning Pituitary Adenomas	World Neurosurg. 2016 Sep;93:430-435.e1. doi: 10.1016	Original Article
136	Kinoshita Y		脳神経外科	Transsphenoidal Posterior Pituitary Lobe Biopsy in Patients with Neurohypophysial Lesions	World Neurosurg. 2017 Mar;99:543-547. doi: 10.1016	Original Article
137	Sakamoto S		脳神経外科	Carotid artery stenting for vulnerable plaques on MR angiography and ultrasonography: utility of dual protection and blood aspiration method	J Neurointerv Surg. 2016 Oct;8(10):1011-5. doi: 10.1136	Original Article
138	Saito T		脳神経外科	Calcification on CT is a simple and valuable preoperative indicator of 1p/19q loss of heterozygosity in supratentorial brain tumors that are suspected grade II and III gliomas	Brain Tumor Pathol. 2016 Jul;33(3):175-82. doi: 10.1007	Original Article
139	Iida K		脳神経外科	Combined surgical intervention with vagus nerve stimulation following corpus callosotomy in patients with Lennox-Gastaut syndrome	Acta Neurochir (Wien). 2016 May;158(5):1005-12. doi: 10.1007	Original Article
140	Ishii D		脳神経外科	Development of in vivo tissue-engineered microvascular grafts with an ultra small diameter of 0.6 mm (MicroBiotubes): acute phase evaluation by optical coherence tomography and magnetic resonance angiography	J Artif Organ. 2016 Sep;19(3):262-9. doi: 10.1007	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
141	Taguchi A		脳神経外科	Osteoporosis, osteoporotic fractures, and carotid artery calcification detected on panoramic radiographs in Japanese men and women	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2016 Jun;121(6):673-80. doi: 10.1016	Original Article
142	Yamasaki F		脳神経外科	Multicentric Glioma Develops via a Mutant IDH1-Independent Pathway: Immunohistochemical Study of Multicentric Glioma	Pathobiology. 2017;84(2):99-107. doi: 10.1159	Original Article
143	Saito T		脳神経外科	Permeability Surface Area Product Using Perfusion Computed Tomography Is a Valuable Prognostic Factor in Glioblastomas Treated with Radiotherapy Plus Concomitant and Adjuvant Temozolomide	World Neurosurg. 2017 Jan;97:21-26. doi: 10.1016	Original Article
144	Ohba H		脳神経外科	Surgical resection of large encephalocele: a report of two cases and consideration of resectability based on developmental morphology	Childs Nerv Syst. 2017 Mar;33(3):541-545. doi: 10.1007	Original Article
145	Hosomi N		脳神経内科	Brain Natriuretic Peptide and Particular Left Ventricle Segment Asynergy Associated with Cardioembolic Stroke from Old Myocardial Infarction	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 May;25(5):1165-1171. doi: 10.1016	Original Article
146	Naito H		脳神経内科	Prevalences of Peripheral Arterial Disease Diagnosed by Computed Tomography Angiography in Patients with Acute Ischemic Stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 May;25(5):1128-1134. doi: 10.1016	Original Article
147	Naito H		脳神経内科	Warfarin-Resistant Deep Vein Thrombosis during the Treatment of Acute Ischemic Stroke in Lung Adenocarcinoma	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 Sep;25(9):e141-5. doi: 10.1016	Original Article
148	Takahashi T		脳神経内科	The identification of raft-derived tau-associated vesicles that are incorporated into immature tangles and paired helical filaments	Neuropathol Appl Neurobiol. 2016 Dec;42(7):639-653. doi: 10.1111	Original Article
149	Aoki S, Hosomi N		脳神経内科	The Multidisciplinary Swallowing Team Approach Decreases Pneumonia Onset in Acute Stroke Patients	PLoS One. 2016 May 3;11(5):e0154608. doi: 10.1371	Original Article
150	Aoki S, Hosomi N		脳神経内科	Temporal Trends in Stroke Severity and Prior Antithrombotic Use Among Acute Ischemic Stroke Patients in Japan	Circ J. 2016 Aug 25;80(9):2033-6. doi: 10.1253	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
151	Nezu T		脳神経内科	Multiple Infarcts Are Associated With Long-Term Stroke Recurrence and All-Cause Mortality in Cryptogenic Stroke Patients	Stroke. 2016 Sep;47(9):2209-15. doi: 10.1161	Original Article
152	Nakamori M, Hosomi N		脳神経内科	Prediction of Pneumonia in Acute Stroke Patients Using Tongue Pressure Measurements	PLoS One. 2016 Nov 1;11(11):e0165837. doi: 10.1371	Original Article
153	Takahashi T		脳神経内科	The origins of rimmed vacuoles and granulovacuolar degeneration bodies are associated with the Wnt signaling pathway	Neurosci Lett. 2017 Jan 18;638:55-59. doi: 10.1016	Original Article
154	Aoki S, Hosomi N		脳神経内科	Blood pressure control with cilnidipine treatment in Japanese post-stroke hypertensive patients: The CA-ATTEND study	Clin Exp Hypertens. 2017;39(3):225-234. doi: 10.1080	Original Article
155	Teishima J		泌尿器科	The impact of change in serum C-reactive protein level on the prediction of effects of molecular targeted therapy in patients with metastatic renal cell carcinoma	BJU Int. 2016 Jun;117(6B):E67-74. doi: 10.1111	Original Article
156	Hayashi T		泌尿器科	Not all NOTCH Is Created Equal: The Oncogenic Role of NOTCH2 in Bladder Cancer and Its Implications for Targeted Therapy	Clin Cancer Res. 2016 Jun 15;22(12):2981-92. doi: 10.1158	Original Article
157	Teishima J		泌尿器科	Effect of Spatial Cognitive Ability on Gain in Robot-Assisted Surgical Skills of Urological Surgeons	J Surg Educ. 2016 Jul-Aug;73(4):624-30. doi: 10.1016	Original Article
158	Inoue S		泌尿器科	Regeneration of rat corpora cavernosa tissue by transplantation of CD133(+) cells derived from human bone marrow and placement of biodegradable gel sponge sheet	Asian J Androl. 2017 Mar-Apr;19(2):203-207. doi: 10.4103	Original Article
159	Hiragun M, Hide M		皮膚科	Oral administration of -carotene or lycopene prevents atopic dermatitis-like dermatitis in HR-1 mice	J Dermatol. 2016 Oct;43(10):1188-1192. doi: 10.1111	Original Article
160	Arihiro K		病理診断科	Comparison of visual assessment and image analysis in the evaluation of Ki-67 expression and their prognostic significance in immunohistochemically defined luminal breast carcinoma	Jpn J Clin Oncol. 2016 Dec;46(12):1081-1087. Epub 2016 Aug 10.	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
161	Yoshimatsu R, Yamagami T		放射線診断科	Change in Imaging Findings on Angiography-Assisted CT During Balloon-Occluded Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma	Cardiovasc Intervent Radiol. 2016 Jun;39(6):865-74. doi: 10.1007	Original Article
162	Yoshimatsu R, Yamagami T		放射線診断科	Retrograde venography during balloon-occluded retrograde transvenous obliteration of gastric varices	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2017 Feb;26(1):1-6. doi: 10.1080	Original Article
163	Maeda Y,Honda Y		放射線診断科	A case of tubulocystic carcinoma of the kidney with aggressive features	Jpn J Radiol. 2016 Apr;34(4):307-11. doi: 10.1007	Original Article
164	Tatsugami F		放射線診断科	Effect of the Motion Correction Technique on Image Quality at 320-Detector Computed Tomography Coronary Angiography in Patients With Atrial Fibrillation	J Comput Assist Tomogr. 2016 Jul-Aug;40(4):603-8. doi: 10.1097	Original Article
165	Kawahara D, Ozawa S		放射線治療科	Marginal prescription equivalent to the isocenter prescription in lung stereotactic body radiotherapy: preliminary study for Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG1408)	J Radiat Res. 2017 Jan;58(1):149-154. doi: 10.1093	Original Article
166	Takahashi S		放射線治療科	Long-term results after 12-year follow-up of patients treated with whole-breast and boost irradiation after breast-conserving surgery	Jpn J Radiol. 2016 Sep;34(9):595-604. doi: 10.1007	Original Article
167	Kimura T		放射線治療科	A randomized Phase III trial of comparing two dose-fractionations stereotactic body radiotherapy (SBRT) for medically inoperable Stage IA non-small cell lung cancer or small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1408 (J-SBRT trial)	Jpn J Clin Oncol. 2017 Jan 9. doi: 10.1093	Original Article
168	Ishikawa M		放射線部	Embolization of Arteriovenous Malformations: Effect of Flow Control and Composition of n-Butyl-2 Cyanoacrylate and Iodized Oil Mixtures with and without Ethanol in an in Vitro Model	Radiology. 2016 Jun;279(3):910-6. doi: 10.1148	Original Article
169	Miyoshi H		麻酔科	Transient symptomatic worsening by atropine in opsoclonus-myoclonus syndrome	Pediatr Int. 2017 Jan;59(1):97-98. doi: 10.1111	Original Article
170	Oshita K		麻酔科	A novel mouthpiece prevents bite injuries caused by intraoperative transcranial electric motor-evoked potential monitoring	J Anesth. 2016 Oct;30(5):850-4. doi: 10.1007	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
171	Shibata Y		薬剤部	Stability of Adrenaline in Irrigating Solution for Intraocular Surgery	Biol Pharm Bull. 2016;39(5):879-82. doi: 10.1248	Original Article
172	Fujii T		輸血部	Analysis of the Japanese subgroup in LEOPOLD II: a phase 2/3 study of BAY 81-8973, a new recombinant factor VIII product	Int J Hematol. 2017 Mar;105(3):280-286. doi: 10.1007	Original Article
173	Ohshimo S		高度救命救急センター	FAM13A polymorphism as a prognostic factor in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Med. 2017 Feb;123:105-109. doi: 10.1016	Original Article
174	Hiyama E		自然科学研究支援開発センター	Resectability and tumor response after preoperative chemotherapy in hepatoblastoma treated by the Japanese Study Group for Pediatric Liver Tumor (JPLT)-2 protocol	J Pediatr Surg. 2016 Dec;51(12):2053-2057. doi: 10.1016	Original Article
175	Kawashima M, Hiyama E		自然科学研究支援開発センター	Telomere biology including TERT rearrangements in neuroblastoma: a useful indicator for surgical treatments	J Pediatr Surg. 2016 Dec;51(12):2080-2085. doi: 10.1016	Original Article
176	Kajikawa M, Higashi Y		未来医療センター	Combination of Flow-Mediated Vasodilation and Nitroglycerine-Induced Vasodilation Is More Effective for Prediction of Cardiovascular Events	Hypertension. 2016 May;67(5):1045-52. doi: 10.1161	Original Article
177	Higashi Y, Kajikawa M		未来医療センター	Relationship between serum triglyceride levels and endothelial function in a large community-based study	Atherosclerosis. 2016 Jun;249:70-5. doi: 10.1016	Original Article
178	Maruhashi T,Higashi Y		未来医療センター	Nitroglycerine-induced vasodilation in coronary and brachial arteries in patients with suspected coronary artery disease	Int J Cardiol. 2016 Sep 15;219:312-6. doi: 10.1016	Original Article
179	Maruhashi T,Higashi Y		未来医療センター	Long-term effect of sitagliptin on endothelial function in type 2 diabetes: a sub-analysis of the PROLOGUE study	Cardiovasc Diabetol. 2016 Sep 13;15(1):134. doi: 10.1186	Original Article
180	Kajikawa M, Higashi Y		未来医療センター	Circulating level of pigment epithelium-derived factor is associated with vascular function and structure: A cross-sectional study	Int J Cardiol. 2016 Dec 15;225:91-95. doi: 10.1016	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
181	Higashi Y		未来医療センター	Endothelial function is impaired in relation to alcohol intake even in the case of light alcohol consumption in Asian men; Flow-mediated Dilation Japan (FMD-J) Study	Int J Cardiol. 2017 Mar 1;230:523-528. doi: 10.1016	Original Article
182	Higashi Y		未来医療センター	Endothelial dysfunction and abnormal vascular structure are simultaneously present in patients with heart failure with preserved ejection fraction	Int J Cardiol. 2017 Mar 15;231:181-187. doi: 10.1016	Original Article
183	Higashi Y		未来医療センター	Endothelial Function Assessed by Automatic Measurement of Enclosed Zone Flow-Mediated Vasodilation Using an Oscillometric Method Is an Independent Predictor of Cardiovascular Events	J Am Heart Assoc. 2016 Dec 21;5(12). pii: e004385. doi: 10.1161	Original Article
184	Shintani T, Okamoto T		顎・口腔外科	Eldecalcitol (ED-71), an analog of 1 alpha,25-dihydroxyvitamin D3 as a potential anti-cancer agent for oral squamous cell carcinomas	J Steroid Biochem Mol Biol. 2016 Nov;164:79-84. doi: 10.1016	Original Article
185	Toratani S		顎・口腔外科	Photodynamic therapy using Photofrin and excimer dye laser treatment for superficial oral squamous cell carcinomas with long-term follow up	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2016 Jun;14:104-10. doi: 10.1016	Original Article
186	Kaku M		矯正歯科	The effect of magnetic field during freezing and thawing of rat bone marrow-derived mesenchymal stem cells	Cryobiology. 2016 Aug;73(1):15-9. doi: 10.1016	Original Article
187	Yoshimi Y, Kunimatsu R		矯正歯科	Effects of C-Terminal Amelogenin Peptide on Proliferation of Human Cementoblast Lineage Cells	J Periodontol. 2016 Jul;87(7):820-7. doi: 10.1902	Original Article
188	Matsuda Y		矯正歯科	RANKL and OPG expression: Jiggling force affects root resorption in rats	Angle Orthod. 2017 Jan;87(1):41-48. doi: 10.2319	Original Article
189	Kaku M		矯正歯科	Irradiation effects of low temperature multi gas plasma jet on oral bacteria	Dent Mater J. 2016;35(5):822-828.	Original Article
190	Awada T, Kunimatsu R		矯正歯科	Effects of C-terminal amelogenin peptides on the metabolism of osteoblasts	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 22;482(4):1154-1159. doi: 10.1016	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
191	Oue H		口腔インプラント診療科	Tooth loss might not alter molecular pathogenesis in an aged transgenic Alzheimer's disease model mouse	Gerodontology. 2016 Sep;33(3):308-14. doi: 10.1111	Original Article
192	Oue H		口腔インプラント診療科	Molar loss and powder diet leads to memory deficit and modifies the mRNA expression of brain-derived neurotrophic factor in the hippocampus of adult mice	BMC Neurosci. 2016 Dec 5;17(1):81	Original Article
193	Shigeishi H		口腔顎顔面再建外科	Higher prevalence and gene amplification of HPV16 in oropharynx as compared to oral cavity	J Appl Oral Sci. 2016 Jul-Aug;24(4):397-403. doi: 10.1590	Original Article
194	Takechi M		口腔顎顔面再建外科	Effects of Apatite Cement Containing Atelocollagen on Attachment to and Proliferation and Differentiation of MC3T3-E1 Osteoblastic Cells	Materials (Basel). 2016 Apr 13;9(4). pii: E283. doi: 10.3390	Original Article
195	Shigeishi H		口腔顎顔面再建外科	Association of temporomandibular disorder with occupational visual display terminal use	Biomed Rep. 2016 Jul;5(1):7-10. Epub 2016 May 4.	Original Article
196	Shigeishi H		口腔顎顔面再建外科	Preoperative oral health care reduces postoperative inflammation and complications in oral cancer patients	Exp Ther Med. 2016 Sep;12(3):1922-1928. Epub 2016 Jul 19.	Original Article
197	Ohta K		口腔顎顔面再建外科	TNF—induced IL-6 and MMP-9 expression in immortalized ameloblastoma cell line established by hTERT	Oral Dis. 2017 Mar;23(2):199-209. doi: 10.1111	Original Article
198	Ohta K		口腔顎顔面再建外科	Effects of Apatite Cement Containing Atelocollagen on Attachment to and Proliferation and Differentiation of MC3T3-E1 Osteoblastic Cells	Materials (Basel). 2016 Apr 13;9(4). pii: E283. doi: 10.3390	Original Article
199	Kitagawa M		口腔検査センター	N-terminal region of human ameloblastin synthetic peptide promotes bone formation	Odontology. 2017 Jan;105(1):116-121. doi: 10.1007	Original Article
200	Doi K		咬合・義歯診療科	Intermittent administration of parathyroid hormone enhances primary stability of dental implants in a bone-reduced rabbit model	J Oral Sci. 2016;58(2):241-6. doi: 10.2334	Original Article

計10

番号	発表者氏名		筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
201	Doi K		咬合・義歯診療科	Osseointegration aspects of placed plant in bone reconstruction ith newly developed block-type interconnected porous calcium hydroxyapatite	J Appl Oral Sci. 2016 Jul-Aug;24(4):325-31. doi: 10.1590	Original Article
202	Tsuka Y		咬合・義歯診療科	Effects of Neodymium-Doped Yttrium Aluminium Garnet (Nd:YAG) Laser Irradiation on Bone Metabolism During Tooth Movement	J Lasers Med Sci. 2016 Winter;7(1):40-4. doi: 10.15171	Original Article
203	Yoshimoto T, Fujita T		歯周診療科	Aggregatibacter actinomycetemcomitans outer membrane protein 29 (Omp29) induces TGF--regulated apoptosis signal in human gingival epithelial cells via fibronectin/integrin1/FAK cascade	Cell Microbiol. 2016 Dec;18(12):1723-1738. doi: 10.1111	Original Article
204	Takeda K		歯周診療科	Brain-Derived Neurotrophic Factor Inhibits Intercellular Adhesion Molecule-1 Expression in Interleukin-1 beta-Treated Endothelial Cells	Cell Biochem Biophys. 2016 Sep;74(3):399-406. doi: 10.1007	Original Article
205	Takeda K		歯周診療科	Brain-Derived Neurotrophic Factor Inhibits Peptidoglycan-Induced Inflammatory Cytokine Expression in Human Dental Pulp Cells	Inflammation. 2017 Feb;40(1):240-247. doi: 10.1007	Original Article
206	Kashiwai K, Kajiya M		歯周診療科	Distinction Between Cell Proliferation and Apoptosis Signals Regulated by Brain-Derived Neurotrophic Factor in Human Periodontal Ligament Cells and Gingival Epithelial Cells	J Cell Biochem. 2016 Jul;117(7):1543-55. doi: 10.1002	Original Article
207	Matsuda S		歯周診療科	A novel method of sampling gingival crevicular fluid from a mouse model of periodontitis	J Immunol Methods. 2016 Nov;438:21-25. doi: 10.1016	Original Article
208	Oda Y		障害者歯科	Five-year longitudinal study of dental caries risk associated with Streptococcus mutans and Streptococcus sobrinus in individuals with intellectual disabilities	J Oral Sci. 2017 Mar 31;59(1):39-46. doi: 10.2334	Original Article

計8
合計208

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report. Review. Letter. Othersから一つ選択すること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 委員会の設置，委員会の手続き，迅速審査，他の研究機関が実施する研究に関する審査	
③　倫理審査委員会の開催状況	年　12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 本学の職員等が臨床研究に係る産学官連携活動等を行う場合における利益相反を適正に管理するために必要な事項を定めている。具体的には、臨床研究利益相反管理委員会や相談室の設置、アドバイザーの配置、臨床研究を実施しようとする職員等による自己申告、同委員会による調査、審査及びその他必要な手続きなどを定めている。	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年25回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年　13　回
・研修の主な内容 人を対象とする医学系研究を始めるための教育セミナー，本院での申請書式の記載方法，医学研究デザイン論（臨床/疫学），モニタリングと監査，研究倫理審査の現状と課題～指針改正・倫理審査の集約化，臨床研究の倫理と不正防止	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

（「1 研修の内容」，「3 研修統括者」については，各診療科ごとに作成：別紙のとおり）

2　研修の実績

研 修 医 の 人 数	99.27　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

研修する医師が、呼吸器内科疾患（びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息を含む気道疾患、呼吸器感染症、呼吸器悪性腫瘍など）の診断と治療方法を習得することを目標としている。この目標の達成のため、日本呼吸器学会が定める呼吸器専門医資格を有する医師を指導医として研修する医師に割り当て、日々指導を受けることができる体制を構築している。また、研修する医師が気管支内視鏡検査技術を習得することができるように、指導医により検査手技の指導が行われる体制も構築している。研修する医師が、最新の臨床診断方法や治療方法の知識を獲得するため、最新論文の抄読会に参加する機会も設けている。

研修統括者（それに准ずる指導医）は、病棟回診や症例検討会において、研修する医師に対して各疾患の診断と治療方法の指導を行っている。

2　研修の実績

研修医の人数	4人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
服部　登	呼吸器内科	教授	29　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

初期研修修了者を対象として、広島県内主要関連病院にて3年間程度専門診療研修を実施している。その後、大学に帰学し、1年間の臨床研修後ののちに大学院へ進学することを基本コースとしている。主要関連病院ならびに大学での臨床研修では、消化器内科のすべての領域をカバーできるよう配慮している。

2　研修の実績

研修医の人数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
茶山　一彰	消化器・代謝内科	教授	35　年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

研修期間：2年間～4年間、卒後4年目以降(教室所属2年目以降)は、個々の希望に沿う進路を模索。

循環器疾患は内科診療の要であり、今後の罹患者数の増加を見込めば、一つの内科診療単位にとらわれない広い領域をカバーする分野であると思われます。冠インターベンションだけではなく、集中治療、リハビリテーションから高血圧・軽症糖尿病・脂質管理まで様々な英知が統合されて始めて、循環器疾患の管理は可能となります。したがって循環器内科とはいえ、その内容は内科学全般に他なりませんし、そうした智恵が求められています。

取得可能な専門医、認定医
1. 日本内科学会認定内科医2. 日本内科学会認定総合内科専門医3. 日本循環器学会認定循環器専門医4. 日本心血管インターベンション学会認定医・指導医5. 日本超音波医学会専門医・指導医6. 心臓リハビリテーション指導士7. 日本高血圧学会専門医

2　研修の実績

研修医の人数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木原　康樹	循環器内科	教授	37　年	統括、心不全等
山本　秀也	循環器内科	准教授	28　年	虚血性心疾患、画像診断等
中野　由紀子	循環器内科	准教授	25　年	不整脈等
栗栖　智	循環器内科	講師	24　年	虚血性心疾患等
福田　幸弘	循環器内科	助教	24　年	虚血性心疾患等、弁膜症
日高　貴之	循環器内科	助教	17　年	弁膜症、心エコー等
土肥　由裕	循環器内科	助教	17　年	肺高血圧等
北川　知郎	循環器内科	助教	16　年	画像診断、虚血性心疾患、心筋疾患等
西楽　顕典	循環器内科	助教	15　年	不整脈等
宇都宮　裕人	循環器内科	助教	14　年	弁膜症、心エコー等
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

専門医研修として、広島大学病院腎臓内科・透析内科において、指導医のもと患者を受け持ち、腎臓病（糸球体疾患、尿細管間質疾患、急性・慢性腎不全の治療・管理）をはじめ、高血圧・膠原病・糖尿病に伴う腎症、電解質異常、輸液管理、血液浄化療法（血液透析・アフェレシス）、腹膜透析に関する診断・治療を修得するよう努めます。入院患者の新患発表、腎病理・透析カンファレンスを行い、腎疾患を含めた一般内科の基本的知識を学びます。早期に内科専門医、腎臓専門医、透析専門医取得を目指します。

2　研修の実績

研修医の人数	0.17　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
正木　崇生	腎臓内科・透析内科	教授	25　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

脳神経領域の臨床医に必要とされる幅広い診療技能を習得するために、脳卒中、神経疾患、老年科疾患を正しく診断し、適切な治療を行うための知識、診療手技、検査手技、治療手技を身につけるとともに、患者および家族、メディカルスタッフから信頼される人間性を身につける。その基盤となるプライマリケアおよび一般内科の基本的な診療技能を身につける。

原則として、卒後３年目から４年間を後期研修期間とし、大学病院および構成病院で研修を行う。ただし、中途での大学院入学や国内外の留学についても柔軟に対応する。

研修中の具体的な目標としては、一般身体的診察や神経内科的診察、一般内科的治療や神経内科的治療、超音波検査と診断（頚動脈エコー検査、神経超音波検査、心エコー検査など）、電気生理学的検査と診断（脳波、筋電図、神経伝導検査など）、画像検査と読影（ＭＲＩ、ＳＰＥＣＴ、ＣＴなど）、髄液検査と診断、自律神経機能検査と評価、神経免疫検査と評価、血管撮影と読影等に習熟し、日本内科学会認定医および日本神経学会専門医を取得することを目標とする。

2　研修の実績

研修医の人数	2 人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
丸山博文	脳神経内科	教授	27 年	
細見直永	脳神経内科	診療准教授	25 年	
高橋哲也	脳神経内科	診療准教授	24 年	
越智一秀	脳神経内科	診療講師	21 年	
永野義人	脳神経内科	診療講師	21 年	
上野弘貴	脳神経内科	診療講師	16 年	
青木志郎	脳神経内科	助教	14 年	
祢津智久	脳神経内科	助教	12 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

血液内科後期研修では、プロフェッショナルの“血液内科臨床医”に要求される血液疾患の診断法と治療法、さまざまな合併症の管理を高いレベルで実践するための幅広い知識と技術を習得するとともに、未知の病態解明や新規の診断･治療法の開発を目指すための “医学研究者”としての視点を習得することを目標とし、具体的には下記の内容の研修を行う.

1. 血液疾患の多彩な診断方法を習得する.
2. 各血液疾患の診断や治療に関わる専門的な知識を習得する.
3. 分子標的治療薬を含む抗腫瘍薬を用いた化学療法に精通する.
4. 造血幹細胞移植療法の適応を決定し、実施できる.
5. 免疫不全に伴う難治性の感染症をコントロールできる.
6. 血液疾患に随伴する合併症の治療に必要な全身管理法を習得する.
7. 患者さんのQOLに配慮し、重層的なチーム医療を実践する.
8. 治験や国際的な臨床研究の遂行に協力する.
9. 身近なクリニカルクエスチョンを臨床研究に発展させ、学会や論文で発表する.
10. 臨床での疑問を独創性あふれる基礎研究に結びつける.

2　研修の実績

研修医の人数	2 人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
一戸　辰夫	血液内科	教授	28　年	
藤井　輝久	血液内科・輸血部	准教授	26　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

内分泌内科：下垂体、甲状腺・副甲状腺、副腎などの内分泌疾患を診断するため、各種ホルモン負荷試験など内分泌機能検査を実施し、その評価方法を研修する。
糖尿病内科：1型および2型糖尿病の診断、合併症検査、治療法を研修する。頻度の少ない稀な糖尿病、妊娠糖尿病などの症例の血糖管理を経験することもある。また、糖尿病療養指導を行うチーム医療のリーダーとしての役割も研修する。

2　研修の実績

研修医の人数	0 人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
米田　真康	内分泌・糖尿病内科	講師	19 年	糖尿病
沖　健司	内分泌・糖尿病内科	助教	18 年	内分泌

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

感染症学：感染症学会感染症専門医取得を基本目標として研修する．当院は日本感染症学会専門医制度認定研修施設であり，感染症専門医育成のためのカリキュラムにそった研修を行っている．

消化器外科学：外科専門医取得後のサブスペシャリティーとして消化器外科専門医，大腸肛門病専門医の育成を行っている．当院は消化器外科学会および大腸肛門病学会の修練認定施設であり，専門医取得に必要な勝利得の経験が可能である．

2　研修の実績

研修医の人数	0人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大毛　宏喜	感染症内科	教授	25　年	日本感染症学会指導医，日本外科学会指導医，日本消化器外科学会指導医，日本大腸肛門病学会指導医

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

1年目は大学病院または関連病院で多くのリウマチ・膠原病疾患の診療に携わり，診察，診断，治療の基本的な知識，技能を身につけます。2，3年目は研修医の希望により，大学病院あるいは関連病院での研修を選択することができます。4年目以後には大学院入学，国内のリウマチ専門病院での臨床研修あるいは大学病院でのさらなる専門研修を行い，リウマチ専門医の取得を一応の目標といたします。

2　研修の実績

研修医の人数	4　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉山　英二	リウマチ科（リウマチ･膠原病科）	教授	36　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科の基礎研究と臨床研究。
肺がん、食道がん、乳がんに対する外科手術。

2　研修の実績

研修医の人数	4　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岡田　守人	呼吸器外科	教授	29　年	
宮田　義浩	呼吸器外科	准教授	28　年	
角舎　学行	乳腺外科	講師	25　年	
浜井　洋一	消化器外科	講師	20　年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

臨床研修を終了した医師が消化器外科領域（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）および移植外科領域（肝移植、腎移植、膵移植）を専門的にトレーニングが受けられるよう、各専門領域をある一定期間ローテーションしつつ手術や周術期管理を中心により専門的に研修を行い、専門医資格の取得などを目指す。

2　研修の実績

研修医の人数	4　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大段　秀樹	移植外科・消化器外科	教授	29 年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

心臓血管外科：外科サブスペシャリティーの一つである心臓血管外科専門医取得を基本目標として研修する．当院は心臓血管外科専門医認定機構が定める心臓血管外科専門医育成のためのカリキュラム上認定修練施設となっており，同機構の修練カリキュラム基本概念（同機構ホームページ参照）に沿った研修を行っている．

消化器外科：まずは外科専門医を取得し、さらに難易度の高い消化器外科領域の手術を経験し、消化器外科専門医取得に必要な手術件数を経験することを目標とする。当院では消化器外科学会が定める修練施設となっており、専門医取得に必要な手術症例を経験することは十分可能である。

小児外科：外科専門医を取得した後，さらに専門的な知識の獲得と手術手技の修練を行い，小児外科専門医の獲得を目標とする．特に大学病院という特性から小児悪性腫瘍など一般的には頻度の少ない症例の経験が可能である．小児外科専門医獲得のため，手術へ執刀医も含む立場での参加，また小児外科学会を始めとした国内のみならず海外学会への参加・発表も積極的に支援する．また，希望時には国内・海外留学の支援も行う．

2　研修の実績

研修医の人数	4　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
末田　泰二郎	心臓血管外科	教授	39　年	日本外科学会指導医、心臓血管外科専門医　修練指導医
檜山　英三	小児外科	教授	35　年	日本小児外科学会指導医、日本外科学会指導医、日本人類遺伝学会（臨床遺伝指導医）、日本臨床腫瘍学会暫定指導医
村上　義昭	消化器外科	准教授	34　年	日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

（歯科保存診療科）
1．歯内療法および保存修復領域の疾患の病因・病態を理解し、診断・治療計画立案ができる。
2．基本的歯内療法および保存修復治療をすることができる。
3．根管内細菌嫌気・好気培養検査、歯科用マイクロスコープおよびニッケルチタンファイルを用いた歯内療法を実践することができる。
・診療内容の難易度を考慮の上、担当を決定する。
・診療上の疑問点、問題点については、研修統括者あるいは上級歯科医師への相談に加えて、必要に応じて医局員全員で症例検討を行う。

（歯周診療科）
歯周病治療に対する以下の専門的な研修を行う。
①歯周病の病因が理解できる。
②歯周病治療に対して必要な検査を行い、正しい診断ができる。
③一般的な歯周病について、個々の歯周病の特徴について、治療法および治療計画について、予後について、患者に対してわかりやすく説明できる。
④歯周病と全身疾患に関して理解し、患者に対してわかりやすく説明することができる。
⑤歯周基本治療、歯周外科治療、メインテナンスを実践することができる。

（口腔インプラント診療科）
1．インプラント義歯による補綴治療
2．高齢者・有病者の全部床及び部分床義歯治療
3．顎関節症の保存的治療
4．摂食・嚥下リハビリテーション
5．入院患者への往診口腔ケア、義歯治療

（咬合・義歯診療科）
1．インプラント義歯を含む審美歯科治療
2．高齢者・有病者への歯冠補綴治療、欠損補綴治療
3．顎関節症の保存・咬合治療
4．入院患者への往診口腔ケア、義歯治療

2　研修の実績

研修医の人数	14 人
(歯科保存診療科)	(0 人)
(歯周診療科)	(7 人)
(口腔インプラント診療科)	(2 人)
(咬合・義歯診療科)	(5 人)

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
柴　秀樹	歯科（歯科保存診療科）	教授	27 年	

鈴木茂樹	歯科（歯科保存診療科）	講師	14 年	
栗原英見	歯科（歯周診療科）	教授	36 年	
武田克浩	歯科（歯周診療科）	助教	15 年	
津賀　一弘	歯科(口腔インプラント診療科)	教授	31 年	
久保　隆靖	歯科(口腔インプラント診療科)	講師	29 年	
阿部　泰彦	歯科(口腔インプラント診療科)	准教授	27 年	
呉本　晃一	歯科(口腔インプラント診療科)	講師	25 年	
是竹　克紀	歯科(口腔インプラント診療科)	助教	19 年	
吉川　峰加	歯科(口腔インプラント診療科)	准教授	16 年	
安部倉　仁	歯科(咬合・義歯診療科)	講師	34 年	
吉田　光由	歯科(咬合・義歯診療科)	准教授	25 年	
土井　一矢	歯科(咬合・義歯診療科)	助教	14 年	
森田　晃司	歯科(咬合・義歯診療科)	助教	11 年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1.研修の内容

本大学病院小児歯科は，小児歯科を標榜し，日本小児歯科学会認定小児歯科専門医を養成するための研修医療施設として認められている。5年間の研修期間に小児歯科専門医としての診断力と高度な治療技術を修得するとともに，小児歯科学に関する臨床研究にも従事し，以下の項目を含むresearch mindを併せ持つ優秀な小児歯科専門医を養成している。

研修内容

①乳歯列期，混合歯列期，永久歯列期の長期の成長過程にわたる口腔管理の実践

②小児口腔疾患の診査診断技術の向上による高度診断力の修得

③小児の口腔軟組織小手術，埋伏過剰歯の摘出術等の治療技術の修得

④多職種連携と地域貢献の実践

⑤海外児童歯科医療支援活動の実践

2　研修の実績

研修医の人数	3　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3.研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
香西克之	小児歯科	教授	35　年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

矯正歯科に関わる専門研修を行っている。矯正歯科に必要な検査、診断、治療計画の作成法について、講義および症例検討会を開催するとともに、矯正装置作製およびタイポドント実習を行うことにより、必要な専門知識と技術の修得を図っている。診療室における臨床研修では、指導医の管理、指導の下、治療を行う。

2　研修の実績

研修医の人数	4　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

研修プログラムを管理し、研修を統括している方の記載をお願い致します。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
谷本　幸太郎	矯正歯科	教授	24　年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

（顎・口腔外科）
口腔外科領域の認定歯科医・専門歯科医・指導歯科医（臨床インストラクター）となるための基本的な臨床能力（態度、技能、知識など）や臨床教育技法を習得する。
特に、
1、医の倫理についての考え方、患者心理に関する知識を身につける。
2、口腔外科領域および関連領域の疾患に対する適切な診察・診断能力をみにつける。
3、口腔外科領域の疾患の適切な処置および手術手技を身につける。
4、患者の全身管理に必要な総合的医学知識を身につける。

（口腔顎顔面再建外科）
・外来診療（診察、小手術など）の指導
・入院患者に対する手術や術後周術期の管理
・カルテ記載方法
・保険点数と算定法

2　研修の実績

研修医の人数	7.5　人
（顎・口腔外科）	（3.5　人）
（口腔顎顔面再建外科）	（4　　人）

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小泉　浩一	歯科口腔外科（顎・口腔外科）	助教	21　年	
武知　正晃	歯科口腔外科（口腔顎顔面再建外科）	准教授	23　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

外来研修としては、統合失調症、気分障害、不安障害、身体化障害、ストレス関連障害、症状性または器質性精神障害、睡眠障害、人格障害などの疾患において、一般的精神医学的な診察、診断と治療の方向性を決定する能力を養うため、予診や代理診察を行い上級医とともに診療に当たる。

病棟研修として、上記疾患における一般的な精神科診断、治療や、身体疾患を合併した精神疾患の治療を、入院患者を上級医とともに担当し学ぶ。週1回の症例カンファレンスや、月1回の症例検討会、月3～7回程度の精神科当直を行う。

コンサルテーション・リエゾン領域の研修として、がんや全身疾患などにともなって出現する精神症状の診断、治療について学ぶ。

その他に、週1回研修医向けの講義を行っている。また、月1回程度の各種勉強会や、年2回の精神科学会を開催している。

2　研修の実績

研修医の人数	5人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山脇　成人	精神科	教授	38年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

・血液疾患、固形腫瘍を代表とする小児慢性疾患の入院患者を担当し、日々の治療・検査を通じて、小児科診療に必要な知識・手技を習得する。また、子どもの病棟生活に関わり、発育・発達について学習する。
・造血細胞移植の症例が多数あり、造血細胞移植に伴う合併症、感染症を経験して治療を行う。
・周産母子センターにおいて、病的新生児の蘇生、呼吸管理、循環管理などの初期対応を学習する。
・専門外来（血液、代謝、内分泌、神経、新生児、心臓、腎臓、リウマチ、精神など）の見学・参加を通じて、小児医療全般について学習する。
・救急外来（当院、広島市立舟入市民病院）の見学・参加を通じて、小児急性疾患、救急疾患の初期対応について学習する。

2　研修の実績

研修医の人数	1.25　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小林　正夫	小児科	教授	38　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

臨床研修を修了した医師に対しては、整形外科の各専門分野に関する専門的知識や手技の向上を目指し、外来診察の指導・手術手技の指導、学会への参加などの研修を行っている。
各関節外科，脊椎外科，腫瘍，リウマチ外科など整形外科の種々の分野における高度医療に関する研修を行っている。

2　研修の実績

研修医の人数	0 人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安達伸生	整形外科	教授	29 年	
久保忠彦	整形外科	准教授	28 年	
田中信弘	整形外科	准教授	27 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

はじめに

脳神経外科診療の対象は、国民病とも言える脳卒中（脳血管性障害）や脳神経外傷などの救急疾患、脳腫瘍に加え、てんかん・パーキンソン病・三叉神経痛・顔面けいれん等の機能的疾患、小児疾患、脊髄・脊椎・末梢神経疾患などです。脳神経外科専門医の使命は、これらの予防や診断、救急治療、手術および非手術的治療、あるいはリハビリテーションにおいて、総合的かつ専門的知識と診療技術を持ち、必要に応じて他の専門医への転送判断も的確に行うことで、国民の健康・福祉の増進に貢献することです。

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後に専門研修プログラム（以下「プログラム」という）に所属し 4 年以上の定められた研修により、脳神経外科領域の病気すべてに対して、予防や診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的知識と診療技能を、獲得します。

本文は、広島大学大学院医歯薬保健学研究院 脳神経外科専門研修プログラムの概要を示すものです。

プログラムの特徴や固有の教育方針・実績など

広島大学脳神経外科では、疾患単位の診療グルーピングと技術や手技単位のグルーピングを構成して、研修医は専門医研修の最初の１年を基幹施設で研修します。悪性脳腫瘍グループ（以下、G と略す）、良性脳腫瘍 G、血管障害 G（血管内治療を含む）、てんかん外科 G、脊椎外科・頭蓋底外科 G と大きく５G にわけられ、研修医は３ヶ月を１単位として初めの各グループを回ります。残り３ヶ月を後者の２G をまわり、まんべんなく研修できます。また、小児神経外科に関しては、脳腫瘍は脳腫瘍 G の時に、小児もやもや病は血管障害 G の時に、水頭症は良性脳腫瘍 G の時に、二分脊椎は症例があるごとに脊椎外科 G と共に診療して経験します。頭部外傷に関しては、高度救命救急センターに脳神経外科専門医のスタッフがいるので、該当患者の手術・全身管理を一緒に行います。深部脳刺激に関しては、広島市内にある関連施設にて症例がある時に、手術に参加させて頂き研修します。従って、基幹施設にいる最初の１年目に連携施設や関連施設では経験が困難な、機能・てんかん外科、小児神経外科、脊椎・脊椎外科を一通り研修できます。この様にして、あらゆる領域を基幹施設、連携施設を中心に経験できます。

診療内容に関しては、高度医療機器を用いての診断や治療を共に実践できます。3TMRI や 320 列 CT、フラットパネル dual projection DSA, Hybrid OR など指導医と共に使用してその高度な内容の把握に努めます。実際、MRI 診断は週 4 日、特殊検査の CT は週 2 日、診断と血管内治療を行う DSA は週 4 日、更に脳磁図週 2 日、SPECT は週 2 日、と脳神経外科自ら行っているので、それぞれの診断、治療の助手として参加して研修しています。

手術機器としては、3 種類の機能や性能の異なる手術用顕微鏡（ライカ、オリンパス、ツアイス）、ICG による血流検査、5ALA による悪性脳腫瘍の描出、各種電気生理学的モニター（SEP, MEP, ABR, facial nerve, AMR, VEP, EOM, lower cranial nerve, 脊髄レベルも含めて）は医療工学士と共に検査や判断を研修できます。また、BrainLab のナビゲーションシステムも必要に応じて使用し、手術の精度を上げています。平成 28 年 5 月からは、術中 MRI を備えた情報統合型手術室 Smart Cyber Operating Theater (SCOT)も稼働可能となり、画像誘導型手術のみならず、電気生理学的モニター情報、細胞生物学的及び細胞化学的情報、脳循環情報、光化学的治療なども同一情報レベルで扱い、ミドルウエアーである OpeLink の開発を行い、手術戦略に応用する計画を進めています。

手術数としては、この数年全体で年間 430-450 件。脳腫瘍 150-190 件、脳血管障害 110-130 件（血管内治療を含む）、てんかん・機能神経外科 30-50 件、脊髄脊椎外科 20-30 件、頭部外傷 15-20 件、小児神経外科 5-10 件、等です。

以上、基幹施設としての広島大学病院脳神経外科の内容を詳述した。各 subspecialty 領域の研修

統括者がその領域の責任者として指導しています。

「広島大学脳神経外科専門医養成プログラム」全体としては、昨年述べた施設・病院と内容です。プログラム全体として、年間経験症例数は2000例を超えています。

2　研修の実績

研修医の人数	3.75　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
粟栖　薫	脳神経外科	科長・教授	37　年	脳神経外科専門医、救急医学会専門医 全体統括
井川房夫	同上	准教授	32　年	同上、脳卒中学会専門医
飯田幸治	同上	講師・診療准教授	29　年	同上、てんかん診療専門医
山崎文之	同上	講師	25　年	同上、癌治療学会認定医
坂本繁幸	同上	助教・学部内講師	21　年	同上、脳神経血管内治療指導医・専門医
岡崎貴仁	同上	助教	20　年	同上、脳神経血管内治療専門医
武田正明	同上	助教	20　年	同上、脊髄外科学会指導医・専門医
木下康之	同上	助教	19　年	同上、神経内視鏡技術認定医
光原崇文	同上	助教	17　年	同上、脳神経血管内治療専門医、脊髄外科学会専門医
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

皮膚科で取り扱う疾患は、アレルギー・膠原病・感染症などの内科系皮膚疾患から熱傷・皮膚悪性腫瘍などの外科系皮膚疾患まで多岐にわたる。また、皮膚症状が全身性疾患の部分症状として出現することも少なくない。

これらの皮膚疾患全般の診断と治療の方法を知り、原発疹、続発疹の名称を用いて口頭および記述により皮膚所見を表現し、一般的な皮膚疾患について検査および治療計画を立案と実施、または適切に専門医へ紹介する技能と態度を修得する。

具体的な手技としては糸状菌検査，皮膚縫合、軟膏外用療法、アレルギー検査等を経験し知識を身につける。

2　研修の実績

研修医の人数	7　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
秀　道広	皮膚科	教授	31年	皮膚科専門医、アレルギー指導医
平郡　隆明	皮膚科	准教授	21年	皮膚科専門医、アレルギー指導医
河合　幹雄	皮膚科	助教	21年	皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医、熱傷専門医、がん治療認定医、認定褥瘡医師
田中　暁生	皮膚科	助教	16年	皮膚科専門医、アレルギー専門医
田中　麻衣子	皮膚科	助教	15年	皮膚科専門医 International Board in dermatopathology
高萩　俊輔	皮膚科	助教	14年	皮膚科専門医
岩本　和真	皮膚科	助教	12年	皮膚科専門医
森桶　聡	皮膚科	助教	11年	皮膚科専門医

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

概要：本プログラムは、２年間の卒後臨床研修を終了して泌尿器科医をめざす医師を対象としており、広島大学およびその教育関連施設における計４年間の専門医教育の具体的内容を定めたものである。本プログラムの最終年度には、日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科専門医の資格が得られるようにプログラムを運営する。
コース全体像：【泌尿器科専門医研修の開始宣言→原則として広島大学病院で泌尿器科基本手技研修を開始→広島大学関連施設にて前期研修（1～2年間）→広島大学関連施設にて後期研修（1～2年間）】（合計4年間の研修期間）→日本泌尿器科学会専門医取得（最短で卒業後6年目）

2　研修の実績

研修医の人数	２人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松原 昭郎	泌尿器科	教授	31年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第４）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

産婦人科の進歩に応じ，広い知識，練磨された技能，高い倫理性を備えた産婦人科医を養成する。
１）産科学，婦人科学について，診断，治療の技術，管理方法を修練する。
２）大学病院，関連研修病院をローテイトし，周産期の診断と管理，分娩・産科手術の実際を修練し，女性の生理，婦人科疾患の病態について幅広い知識を習得する。
３）希望者（初期研修でローテイトしていない者は）はNICUをローテイトし，NICUにおける未熟児を含む新生児管理についての知識と技術を習得する。
４）日本専門医機構による新専門医制度に備え、日本産科婦人科学会に新たに認定された「産婦人科指導医」による指導体制を整えている。学会の示す指導施設のうち、総合型指導施設である基幹病院として、「広島大学産科婦人科　専門研修プログラム」を整備、改正しながらこれに沿った指導を行っている。

2　研修の実績

研修医の人数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
工藤　美樹	産婦人科	教授	31　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）　サブスペシャリティ領域は以下の４つで、それぞれの研修管理委員会担当者は以下のとおりである。１）腫瘍：平田英司　２）周産期：田中教文　３）女性医学：山本弥寿子　４）生殖・内分泌：兵頭麻希　５）全領域の統括担当：三好博史

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

初期の４ヶ月では、患者への適切な対応、基本的な診察、必要検査の施行、診療録への正確な記載など基本的なことを指導医から実地に指導を受け修得し、中期の４ヶ月では、各種プログラムに必要な症例の経験やレーザー治療を含めた基本手術手技の習得や手術助手の経験をつむ。後期の４ヶ月では、基本的な疾患の手術を指導医のもと実際に経験し目標を達成する。特に担当する手術患者については手術室で指導医の管理のもと、局所消毒の習得や手術介助を行い、局所麻酔法や眼科手術における基本的術式の理解と研修を行った。
以上より1年の研修終了後には一通りの疾患に対する基本知識と考え方を身につけることができた。さらに、抄読会や症例検討会で症例報告などを行い、各種講習会、学会発表に主体的に参加させ指導医のもとさらに掘り下げた教育を行い疾患に対するより理解を深め、眼科専門医として必要な知識と技能を習得できた。

2　研修の実績

研修医の人数	6　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木内　良明	眼科	教授	34　年	
近間　泰一朗	眼科	准教授	25　年	
山根　健	眼科	講師	21　年	
地庵　浩司	眼科	医科診療医	20　年	
吉川　知子	眼科	講師	17　年	
奥道　秀明	眼科	特任助教	17　年	
井之川　宗右	眼科	医科診療医	16　年	
戸田　良太郎	眼科	助教	15　年	
竹中　丈二	眼科	助教	15　年	
柳　昌秀	眼科	医科診療医	14　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

第一期：大学病院における研修（1年：卒後3年目）
耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学研究室に入局後、1年間で耳鼻咽喉科一般の必要最低限の基礎的なトレーニングを終了し、併せて上気道の管理・確保も可能となるようトレーニングする。耳鼻咽喉科・頭頸部外科医として必要な臨床研修を行う。

第二期：研修協力病院における研修（2年：卒後4年目）
研修協力病院（AグループまたはBグループの関連病院）において、共通プログラムに基づき耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修を継続する。

第三期：研修協力病院または大学病院における研修（3年：卒後5年目）
経験した症例数に応じて、研修協力病院（前年と別のグループの関連病院）あるいは大学病院において、共通プログラムに基づき耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修を継続する。

第四期：大学病院または研修協力病院における研修（4年：卒後6年目）
原則として、研修協力病院より大学に戻り、耳鼻咽喉科・頭頸部外科病棟、外来において、今まで習得した知識、技術を精錬するとともに、初期研修医、学生の指導にあたる。経験した症例によっては、AグループまたはBグループの関連病院にて耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修を継続する。卒後6年の研修終了後には日本耳鼻咽喉科学会専門医受験資格を得る。また、この時期から各専門研究グループに入り、その専門知識の習得と研究を行う。希望があれば卒後5年目より大学院に入学し、学位論文に対応する研究論文を作成する。

2　研修の実績

研修医の人数	4.6　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平川　勝洋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授・診療科長	40　年	
井門　謙太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	講師	26　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

(1)単純 X 線写真・CT・MRI・核医学検査等の読影を行い、指導医のもとに画像診断報告書の作成を行う。この過程で、画像解剖・代表的な所見・鑑別診断法について習得する。

(2)研修中に経験した重要な症例について、指導医のもとでスライドにまとめ、放射線診断科の定例カンファレンスで発表する。この過程で各症例に関する知識をより深めるとともに、プレゼンテーションおよびディスカッション能力を習得する。

(3) 様々なIVR手技に助手として参加し、検査後に指導医のもとで報告書を作成する。また、IVR入院患者につき指導医のもとに患者管理の基礎を修得する。

2　研修の実績

研修医の人数	5　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
粟井　和夫	放射線診断科	教授	30　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

当院では各臓器に発生する様々な悪性腫瘍を幅広く網羅している。個々の症例に対する治療戦略の構築は診察を踏まえた診療科内および診療科横断的カンファレンスを通して行っている。臨床研修を終了した医師は放射線治療科に専属し、初診時の診察から放射線治療計画立案、治療期間中の診療、治療終了後の効果判定と有害事象評価に携わることで臨床経験を積む。外部照射の治療計画は年間100例以上を経験する。小線源治療においては術者としてチームに加わり技術を習得する。院内で開催される月２０回を超えるカンファレンスや勉強会に出席し、プレゼンテーションと発言を通して知識の充実を図る。病棟においては、主に食道癌に対する化学放射線療法、甲状腺癌に対するヨード内用療法などの管理を通じて臨床経験を積む。また専門的研修を開始して１年ほどの経験を経た時点で関連領域である画像診断に関する研修を行う。これらの研修を踏まえて専門的研修開始後３年を経過した時点で放射線科専門医、５年を経過した時点で放射線治療専門医の資格を取得することを目標としている。

2　研修の実績

研修医の人数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
永田　靖	放射線治療科	教授	35　年	
木村　智樹	放射線治療科	講師	22　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することができる麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する.

具体的には下記の４つの資質を修得する.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

2　研修の実績

研修医の人数	７　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
河本　昌志	麻酔科	教授	37 年	(公社)日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 麻酔科標榜医
濱田　宏	麻酔科	准教授	31 年	同上
讃岐　美智義	麻酔科	講師	29 年	同上
福田　秀樹	麻酔科	講師	28 年	同上
安田　季道	麻酔科	助教	22 年	同上
梶山　誠司	麻酔科	助教	22 年	同上
原木　俊明	麻酔科	助教	15 年	同上
加藤　貴大	麻酔科	助教	13 年	同上
仁井内　浩	手術部	准教授	31 年	同上
佐伯　昇	手術部	助教	26 年	同上
大下　恭子	手術部	助教	24 年	同上
中村　隆治	手術部	助教	17 年	同上

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

１．コースの概要

本コースでは軽症から重症、内科性から外因性疾患、そして小児から高齢者まで、幅広い急性期疾病に対応できる救急総合医の養成を目指す。

具体的習得目標

１）救急初期診療における全身評価及び救命救急処置ができる。
２）重症患者に対する集中治療ができる。
３）一般救急外来患者への医療対応ができる。
４）在宅や院外などの救急現場における急性期診療ができる。
５）リーダとして救急医療チームの指揮・指導ができる。
６）災害時の医療対応ができる。
７）病院前救護における指導や助言が行える。

広島大学病院高度救命救急センターは重症外傷や熱傷など外因性疾患、種々の重症内因性疾患、そして敗血症や臓器不全など多彩な疾病に対する重症患者管理において豊富な臨床経験を得ることのできる全国有数の施設です。ただし、広島大学病院の救急研修では初期・二次救急疾患、外傷外科、地域医療における臨床経験が不十分となるため、広島大学病院以外の救急医療施設と後期研修プログラムを構成しています。

２．構成病院群一覧（救急科後期研修協力医療機関）と特色

“Hiroshima-Kyoto collaboration”

（１）　広島市立広島市民病院：西日本有数のER研修施設、救命救急センター
（２）　県立広島病院：豊富な外傷救急、救命救急センター
（３）　中国労災病院：島しょ部を含めた地方型総合救急医療
（４）　国立病院機構呉医療センター：重症を中心とした救命医療、救命救急センター
（５）　マツダ病院：地域密着型救急初期診療
（６）　広島市立安佐市民病院：中山間地での多彩な救急医療
（７）　JA尾道総合病院：地域密着型救急医療、地域救命救急センター
（８）　JA広島総合病院：地域密着型救急医療、地域救命救急センター
（９）　三次中央病院：地域密着型救急医療（へき地医療拠点病院、広島大学ふるさと枠の指定する中山間地域公的医療機関）
（１０）国立病院機構東広島医療センター：地域密着型救急医療
（１１）国立病院機構京都医療センター：ERからICUまで完遂型総合救急、救命救急センター
（１２）京都第二赤十字病院：外傷外科救急、京都市最大の救命救急センター
（１３）市立福知山市民病院：地域密着型総合内科救急、地域救命救急センター

＊各施設の特長を活かした横断的研修により救急医療の“オールラウンドプレーヤー”に必要な臨床技能を磨くことができます。
＊　研修者の希望に応じて病院選択および研修内容をアレンジ可能です。

３．研修期間

2018年度については、日本救急医学会による旧認定プログラムと、新認定プログラム（専門医機構プログラムに以降予定）の双方での研修が可能です。

（１）　旧プログラムでは、1年単位での研修が可能です。合計3年（条件により最低1年）の研修により日本救急医学会救急科専門医取得が可能となります。
（２）　新プログラムでは、３年間のプログラム研修により、救急科専門医取得が可能です。
（３）後期研修修了後の進路は希望に応じて対応可能です。
（４）広島大学ふるさと枠卒業生の就労義務年限の中での専門医取得が可能です

（５）社会人大学院への進学も可能です

４．取得できる専門医、認定医について
１）基本領域学会専門医
救急科専門医、救急科指導医
２）多領域横断的関連学会専門医、新規加盟学会専門医
集中治療専門医（日本集中治療医学会）
熱傷専門医（日本熱傷学会）
クリニカル・トキシコロジスト（日本中毒学会）
脳卒中専門医（日本脳卒中学会）
呼吸療法専門医（日本呼吸療法医学会）
感染症専門医（日本感染症学会）
ICD：インフェクションコントロールドクター（ICD制度協議会）など

2　研修の実績

研修医の人数	2　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
志馬　伸朗	救急科 高度救命救急センター 集中治療部	教授 診療科長 センター長 部長	29　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

がんの診療における各種診断法、化学療法による治療、化学療法の副作用対策などについてより深い知識を習得することを目標としている。さらに、がん薬物療法専門医を目指すうえで必要な基本手技や知識を習熟するための研修を行う。

2　研修の実績

研 修 医 の 人 数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
杉山　一彦	腫瘍内科（がん化学療法科）	教授	33年	
妹尾　直	腫瘍内科（がん化学療法科）	病院助教	18年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

全臓器の外科病理、臨床病理的な手法と考え方を習得することが可能です。殊に新規に開発される様々な分子標的治療薬の効果予測因子を検索するためのコンパニオン診断の知識や検索をin houseで行い、評価方法も学ぶことが出来る。具体的にはFISH法を用いてのHER2やALK1遺伝子の検索やK-RASやEGFRのmutationの検索を実習できる。更に多数症例の病理解剖を研修できる。全国的に病理解剖は減少傾向にあるが、本学の年間病理解剖数は約60-70例で、全国の旧国立大学病院の中で３位であり、極めて多彩な症例の経験ができることは大きな長所である。細胞診についても様々な症例を研修することが可能である。

2　研修の実績

研修医の人数	2　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
有廣　光司	病理診断科	教授	29　年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

形成外科疾患全般の知識、技術習得を目的に、主には病棟医として専門医である診療科長のもと、下記の研修を行う。

1）　形成外科で扱う疾患を理解し、形成外科診療の基礎を理解し、実践すること
2）　救急を含んだ日常診療において遭遇する形成外科疾患の初期治療を習得すること
3）　創傷治癒や組織移植に関する基礎知識、術後管理の基本を幅広く学び熟度に応じて、手術にも積極的に参加する。

2　研修の実績

研修医の人数	1 人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
横田　和典	形成外科	教授	28 年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

広島大学病院リハビリテーション科は、リハビリテーション科専門医研修プログラムの基幹研修施設であり、広島市立リハビリテーション病院、アマノリハビリテーション病院、山崎病院を統括している。高度の医療に関する研修を実施するため、リハビリテーション科専門医２名とリハビリテーション科専門研修指導医１名を有している。また平成２９年３月に、リハビリテーション科専門医試験を２名受験予定である。
広島大学病院は社団法人日本リハビリテーション医学会研修施設として認定されている。

2　研修の実績

研修医の人数	0　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木村　浩彰	リハビリテーション科	教授	28年	リハビリテーション医学会専門医、指導医
三上　幸夫	リハビリテーション科	助教	21年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第５）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　（２．）現状
管理責任者氏名	病院長　平川　勝洋
管理担当者氏名	病院総務グループリーダー　新本　陽一郎 病院医事グループリーダー　名越　恵

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務グループ 病歴管理センター	カルテは1患者1カルテで病歴管理センターで保管管理し，X線写真は，各診療科で保存管理している。 なお，診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務グループ	
		高度の医療の提供の実績	医事グループ	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事グループ	
		高度の医療の研修の実績	総務グループ	
		閲覧実績	総務グループ	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事グループ	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事グループ，薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務グループ	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務グループ	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ＭＥ機器管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ＭＥ機器管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ＭＥ機器管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務グループ	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務グループ	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務グループ	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務グループ	
		医療安全管理部門の設置状況	総務グループ	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術審査部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品等審査部	
		監査委員会の設置状況	総務グループ	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	財務・総務室総務グループ	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務グループ	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　(2) 現状	
閲覧責任者氏名	病院運営支援部長　三分一　恒男	
閲覧担当者氏名	病院総務グループリーダー　新本　陽一郎	
閲覧の求めに応じる場所	総務グループ事務室	
閲覧の手続の概要 閲覧希望者の求めに応じて，総務グループ室内で行っている。		

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0件
閲覧者別	医師	延　0件
	歯科医師	延　0件
	国	延　0件
	地方公共団体	延　0件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

（様式第 6）

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無

・ 指針の主な内容：

【医療安全管理のための指針】

１．医療安全管理に関する基本的な考え方

２．用語の説明

１）医療上の事故等（インシデント）
２）ヒヤリ・ハット（ゼロレベルインシデント）
３）医療過誤（法律用語）
４）合併症

３．医療安全管理に関する推進方法

１）医療安全管理体制の構築
２）医療事故・インシデントなどの報告制度の確立
３）職員に対する医療安全教育・研修の実施
４）事故発生時の対応方法の確立
５）医療事故の公表と報告
①医療機関への報告・公表
②公表する範囲
③プライバシーの尊重
④当事者に対する配慮
⑤警察への報告
⑥社会への公表

４．医療安全管理に関する指針の閲覧について

５．患者相談窓口について

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

・ 設置の有無（ 有・無 ）
・ 開催状況：年６９回
・ 活動の主な内容：

【医科・歯科共通】

１）「医療事故防止等対策委員会」（平成２９年１月から「医療安全管理委員会」へ会議名を変更）は、月１回開催し、本院の医療安全管理の統括的な事項について審議する委員会で、「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」及び「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」を統括し、医療の安全管理、医療事故の防止、医療訴訟に関する事項を審議する。
　また、「医療事故防止等対策委員会」（「医療安全管理委員会」）は、「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」、「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」及び「医療安全管理部会議」から改善策等の審議内容の報告を受けて審議決定し改善策やマニュアルについて医療安全管理部に周知徹底するようフィードバックする。（年１２回）

２）「医療安全管理部会議」は、隔週で開催し、医療事故防止及び安全性の確保に必要な企画・立案及び評価を行うとともに、医療現場において機能的に対処・指導を行い、病院内の医療安全に関する対策と意識向上を図る。（年２６回）

【医科領域】

１）「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」は、インシデントレポートの患者影響レベルの判定と医療事故の定義に照らして、患者影響レベル3b以上の事象については医療事故か医療事故でないかを判定し、病院長に報告する。（年１９回）

【歯科領域】

１）「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」は、月１回開催し、歯科領域のインシデントレポートに基づき、患者影響レベルの判定及び医療事故の防止策等を審議する。医療過誤がある事例については病院長へ報告する。（年１２回）

③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年１８回

・　研修の主な内容：別紙①のとおり

④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　（　有・無　）
・　その他の改善のための方策の主な内容：

【医科・歯科共通】

１）インシデント報告制度の目的や趣旨が十分に伝わるように研修会やリスクマネジャー会議を通じて伝達している。
２）病院全体に係る重要事象の分析・改善策は医療安全管理部で検討し、医療事故防止等対策委員会（医療安全管理委員会）で審議のうえ、病院運営会議で報告し、改善策の周知徹底を図る。
３）院内安全巡視等を行うことで、改善状況を評価する。
４）発生した重大なインシデントについては、現場のリスクマネジャーを中心にチームで分析・改善策を検討し、医療安全管理部に報告する。医療安全管理部は、必要に応じて事実確認及び詳細な情報収集を行い、要因を特定し、対策を立案し、医療事故防止等対策委員会（医療安全管理委員会）へ報告するとともに、リスクマネジャー会議へフィードバックする。
５）月々のインシデントレポートのマクロ的な集計結果及び重要事象の分析結果をリスクマネジャー会議で報告し、情報の共有化を図る。

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： １．院内感染対策に関する基本的な考え方 ２．院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項 （１）感染症対策委員会 （２）感染制御チーム（ICT）、感染対策リンクナース及び感染対策実践者 ３．院内感染対策のための従業員に対する研修に関する基本方針 ４．感染症発生状況の報告に関する基本方針 ５．院内感染発生時の対応に関する基本方針 （１）通常時の対応 （２）緊急時（重大な院内感染等の発生）の対応 ６．患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ７．病院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年４９回
・ 活動の主な内容： 【医科・歯科共通】 １）「感染症対策委員会」は、月１回開催し、院内の感染防止のための調査、研究、対策に関する事項の統括審議を行い、また、小委員会の審議結果の調整及びその他感染症に関する事項の審議を行う。（年12回） ２）「感染制御チーム会議」は月１回開催し、院内感染情報等の収集、調査、分析を行い、院内感染防止のための対策及び啓発の企画・立案並びに情報提供に関する審議を行う。（年12回）（臨時１回） 【医科領域】 １）「感染症対策小委員会（医科領域）」は、月１回開催し、医科領域に関し、院内の感染防止のための対策、感染情報レポートの分析・活用及び針刺し（穿刺）感染に関する事項の審議を行う。また、感染防止に係る教育・研修及び院内感染防止に係るマニュアルの策定・改訂に関する事項を審議し、周知徹底するようフィードバックする。（年12回） 【歯科領域】 １）「感染症対策小委員会（歯科領域）」は、月１回開催し、歯科領域に関し、院内の感染防止のための対策、感染情報レポートの分析・活用及び針刺し（穿刺）感染に関する事項の審議を行う。また、感染防止に係る教育・研修及び院内感染防止に係るマニュアルの策定・改訂に関する事項を審議し、周知徹底するようフィードバックする。（年12回）	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年９回
・ 研修の主な内容：別紙②のとおり	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染対策の実務を行うＩＣＴ活動を実施し、情報の収集と対策について、現場へフィードバックをする。	

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	1 年 約10回

・ 研修の主な内容：
・「医療安全管理職員研修会　薬剤関連インシデント報告」全職員対象に、医療安全管理研修会の一部として実施
・「安全なミキシングについて」　全職員対象に、薬剤部の製剤室にて見学実習・研修会
・「薬剤部の業務内容と医薬品安全対策について」　研修医オリエンテーション
・「医薬品の医療安全（薬のここに気をつけよう）」新規（新人・中途）採用看護師

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成　（ 有・無 ）
・ 業務の主な内容：
　随時、必要時に、各業務の部門責任者及び業務担当責任者が手順書の業務内容に該当する項目が守られているか確認して見直しを図っている。また、薬品管理に関しては、担当者が看護師と協力してマニュアルに基づいて管理を行うとともに、医薬品安全管理責任者（必要に応じて担当者）が必要時実施状況の確認が必要と思われる部門に出向いて確認を行っている。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（ 有・無 ）
・ その他の改善のための方策の主な内容：

① 院内リスクマネージャー（RM）会議（毎月）において、薬剤部業務及び病棟業務にて収集した副作用の障害を未然に防いだ事例や医薬品の適正使用及び疑義照会に関する内容を整理して報告。また、インシデント事例の分析と対策についてプレゼンを実施。さらに、これらの中から注目すべき内容を取り上げて、「薬剤部ニュース」として、処方例および簡潔な薬学的根拠に関する説明を行い、病院情報システムによって広報。

② 薬剤部リスクマネージャー（RM）の下に薬剤部内各部署にRMアシスタント（RMA）を配置し、薬剤に関するインシデント事例や調剤・製剤、病棟、化学療法など各部署におけるリスクを担当者から吸い上げて、検討（定例会議 1回/月）し改善を図る。必要に応じて順次手順書や薬剤部マニュアルなどを改訂。

③ 病棟担当者による病棟の現場に即した講義を実施　計8回開催
対象：現場の医師、看護師、医事グループスタッフなど
講義内容：処方せんの読み方について、薬剤部まつわるあれこれ、免疫抑制剤について、手術室で使用される薬剤について、新規EGFR-TKI　オシメルチニブについて、造血肝細胞移植に用いる薬、肺癌サイラムザ適正使用研修会、医療用麻薬について

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年5回　程度
・ 研修の主な内容： 注入ポンプ使用に関する説明会 心電図・除細動器使用に関する説明会 人工呼吸器安全使用に関する説明会 補助循環装置の安全管理に関する研修会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定　（ 有・無 ） ・ 保守点検の主な内容： 特定保守管理機器に関しては取扱説明書に準じて定期的かつ必要事項を点検している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎月、医療安全管理部から医療機器に関連するインシデント報告をもらい、必要に応じて対策をＳＰＤセンター運営委員会に報告し検討する。そしてＳＰＤセンター運営委員会で対策を検討した結果を院内へ通達する。	

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第９条の 23 第１項第１号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理担当の副病院長を医療安全管理責任者として配置し，統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（　２名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

・採用医薬品について，添付文書，インタビューフォーム，使用上の注意の解説，製品情報概要等を入手し，専用キャビネット及び電子ファイルとして薬剤部サーバで保管している。

・添付文書の改訂情報を把握し，改訂時には新添付文書及び改訂内容を解説した使用上の注意の改訂のお知らせを当該医薬品の製造・販売企業より入手する。

・緊急安全性情報・安全性速報の発出時，およびこれらに準じる緊急性の高い情報を取得した際には，医薬品安全管理責任者へ報告し，関係者と緊急度および重要度に応じて対応を協議している。

・使用患者を特定して対応する必要のある場合には，診療 DWH を使用して情報収集を行い，関係部署へ直接連絡を行って，対応を協議する。必要に応じて診療 DWH から抽出した情報に基づいて，当該患者の担当診療科・担当医師に対して患者一覧を添えた通知や，個別の患者への通知を行う。

・効能効果・用法用量の追加・変更情報，処方日数制限の変更，採用医薬品の取り扱いの変更や供給に関する情報などについて，内容に応じ適宜書面，院内情報ウェブ掲示板を用いて通知を行う。

・その他，添付文書情報の改訂，各機関から発出された安全性情報などは原則月１回，まとめて各部科長，病棟看護師長，薬剤部各部署に通知し，病院情報システムグループを通じて院内掲示板にも掲示する。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

＜未承認薬について＞

・当院は、オーダリングシステムによってオーダ入力された処方について調剤を行っている。未承認薬は、オーダリングシステムに登録されていないことから誤って調剤することはない。

＜適応外使用および禁忌に該当する医薬品の使用について＞

・入院患者については、全病棟に薬剤師を配置しており、病棟担当薬剤師が全患者の処方についてチェックを行い、医師へ情報提供や処方変更の提案・相談などを行っている。その結果は、病棟薬剤業務・薬剤管理指導記録へ記録しており、その記録は電子カルテに保管され、医師や看護師を始めとして全職種が確認可能となっている。該当する医薬品の使用を認めた場合は、薬剤部へ報告する。

・外来患者については、随時医師の相談に応じて対応している。

・処方オーダ時に、併用禁忌に関してはアラートが出るシステムとなっている。

・薬剤師からの情報提供や医師や看護師からの質問や相談、処方変更などの内容は、全て院内インシデントシステムにてプレアボイド報告として記録されている。これらの情報は、毎月全職種が出席するリスクマネージャー会議にて報告され、院内全体に情報共有され、注意喚起が行われている。

＊なお、2017 年 4 月、未承認新規医薬品等審査部（以下、審査部）および未承認新規医薬品等評価委員会（委員会）を設置した。具体的については、規則第 9 条の 23 第 1 項第 8 号の「⑧未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況」を参照。

・担当者の指名の有無（有・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部　，職種　薬剤師　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（有・無）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

・毎月全退院患者の診療録について、量的監査、記載内容の確認を行い、年３回特定の入院診療録の記載について同じ診療科で主担当でない別の医師２人、他の診療科医師１人計３人で質的監査を行い、結果を各診療科へフィードバックするとともに全診療科で構成している委員会にも報告している。診療録記載の充実について、啓発を行っている。

・主な指導内容は，カルテ記載が乏しい項目について指摘し，情報開示に耐えうる内容にするよう促していることである。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（３）名、専任（１）名、兼任（１）名

うち医師：専従（　）名、専任（１）名、兼任（１）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（２）名、専任（　）名、兼任（　）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

１）リスクマネジメント業務の総括
２）医療事故等に関連する情報の収集、調査、分析
３）医療事故に関するカルテ等の記載内容の点検及び指導
４）患者及び家族への説明等について、医療事故発生時の対応状況の確認及び指導
５）医療事故等の原因究明の実施確認及び指導
６）医療事故防止にかかる教育・研修及びその環境整備
７）医療の質向上
８）医療安全に係るの各種マニュアルの管理
９）定期的な院内の巡視
１０）手術時の血栓予防策実施率のモニタリング

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

（経過措置適用期間）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

（経過措置適用期間）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（　有・無　）

⑨　監査委員会の設置状況　　（経過措置適用期間）	有・無

・監査委員会の開催状況：年　　回

・活動の主な内容：

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長	選定理由	利害関係	委員の要件

		（○を付す）			該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年４４０件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年５０件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

専任リスクマネジャーは，医事グループ及び病歴管理センターから提出された，退院サマリー，死亡診断書の内容，死亡退院時スクリーニングシート及び電子カルテ内容を確認し，死亡退院までの経緯を把握する。このことは、医療事故調査制度にも関連することから、毎月１回医療事故防止等対策委員会（医療安全管理委員会）にて死亡事例調査報告書をあげ，入院患者の死亡事例について審議を行っている。緊急かつ重大な事象が発生した場合は，医療安全管理マニュアルにその一般的な対応方法を定めているが、当該事象に対する具体的な対応を審議するための危機管理室，病院長が関係者からの事情聴取による事実確認を行い，その結果，医療法に定める医療事故の発生その他必要な事項を判断する症例検討委員会、医療の安全確保に関し，医療事故の係る原因の調査究明及び再発防止を行う医療事故調査委員会が、それぞれの任務にあたっている。

また、緊急かつ重大な事象以外のインシデントが発生した場合、当事者又は発見者は，発生後速やかに，インシデントレポートにより報告することが医療安全管理マニュアルとして定めている。その流れ・患者影響レベルの選別において、専任リスクマネジャーによるレベル選別会議及び医療安全管理部会議においてレベル 3a 以上の事象を選定後、患者影響レベル判定小委員会（医科領域）及び医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）の審議を経て、必要に応じて医療事故防止等対策委員会（医療安全管理委員会）で「事例報告書及び改善策検討報告書」の審議や当該改善策の実行を指示している。また、リスクマネジャー会議を通じて、各リスクマネジャーに当該事案の周知や実践を図っている。

⑪　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：　　）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：　　）・無）

・技術的助言の実施状況

国立大学附属病院長会議常置委員会による『医療安全・質向上のための相互チェック』を隔年などで実施している。平成２７年度及び平成２８年度は実施していないが、平成２６年度の実施

状況は、次のとおりである。 ・他の特定機能病院への立ち入り（　有　（病院名：金沢大学附属病院） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（　有（病院名：大阪大学医学部附属病院）
⑫　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 患者・家族等からの相談等に応じられる体制を確保するための患者相談窓口として、患者支援センター医療相談室を設置しており、当該相談等で医療安全に関わるものについては、医療安全管理部と連携して対応し、安全対策の見直し等に活用している。
⑬　医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（　有・無　） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（　有・無　） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（　有・無　）
⑭　職員研修の実施状況
・研修の実施状況：別紙①のとおり
⑮　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 （経過措置適用期間）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

別紙①

平成28年度　医療安全管理職員研修会

●医療安全管理部・感染制御部主催

【必修】

3/31現在

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
ー	6	当院における医療安全管理体制について 診療ルール，インシデント報告のルール，具体的事例の改善策，職員研修受講の必要性	安全	医療安全管理部長　栗栖　薫　教授	全職員	6月20日(月)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修含)	2,907
ー	6	蚊媒介感染症について	感染	感染症科　梶原　俊毅　助教	全職員	7月5日(火)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修含)	2,885

【選択】

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
1	4	「リスクマネジャーの役割について」	安全	医療安全管理部　宮本　真太郎　専任リスクマネージャー	リスクマネジャー	4月19日(火)　リスクマネジャー会議開催時 臨床管理棟3階　大会議室	89
2	5	「造影剤の副作用対策およびMR室への金属持ち込みの危険性」	安全	放射線診断科　粟井和夫　教授	全職員 (新規採用者必須)	5月12日(木)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	679
3	5	「正しく検査を行うために―検体採取から提出まで―」 「病理検体の正しい取り扱い」	安全 感染	診療支援部　津川　和子　検体検査部門長 病理診断科　有廣光司　教授	全職員 (新規採用者必須)	5月23日(月)17:45～18:45 医学部第4・5講義室	761
5	7	軽症くも膜下出血の見落とし防止	安全	脳神経外科　井川　房夫　准教授	全職員 (新規採用医必須)	7月21日(木)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	269
6	9	「新型アデノウイルス結膜炎の流行状況と感染予防対策」 「流行性角結膜炎発生時の病棟での対応」	感染	眼科　戸田　良太郎　助教 10階東病棟　松本　由美子　副看護師長 三原　真由美　副看護師長	全職員	8月1日(月)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	533
7	8	「エボラの証人　ー医療上および倫理上の課題」	安全	エボラの証人の医療機関連絡委員会　花井章悟	全職員	8月29日17:45～18:45 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	468
8	9	【専門医共通講習】「トラブル発生時の患者への初期対応について」	安全	寺西康一郎法律事務所 寺西　康一郎　弁護士	全職員	9月5日(月)17:45～18:45(1時間) 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	123
9	10～12 (複数開催)	BLS	安全	ACLSインストラクター	全職員	10月28日(金)17:45～18:45 11月24日(木)17:45～18:45 12月19日(月)17:45～18:45 スキルスラボ	65
10	9	【専門医共通講習】「耐性菌の現状と課題」	感染	大毛　宏喜　感染制御部長	全職員	9月26日(月)17:45～18:45(1時間) 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	100
11	10	「インフルエンザの基礎知識」	感染	感染制御部	全職員	10月下旬～11月上旬実施	2,761
12	1	「肺炎に対するワクチンの話題」	感染	感染症科　梶原　俊毅　助教	全職員	1月24日(火)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	233
13	3	「医療安全管理部／感染制御部・各部門年間活動報告」	安全 感染	医療安全管理部／感染制御部　各部門	全職員	3月8日(水)17:30～18:30 医学部　第4・5講義室(予定)	295
14	随時	「手指衛生」	感染	感染対策リンクナース	全職員	随時	350
ー	随時	DVD視聴「ノロウイルス感染対策　基礎と実践」	感染		清掃職員	DVD視聴レポート提出	9

●医療安全管理部共催

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
ー	6	「ガラスバッジの適正使用並びに放射線の人体に及ぼす影響に関する研修」	ー (安全)	放射線部長　永田　靖　教授 放射線取扱副主任者　田村　恵美　助教	放射線診療業務従事者 (対象者以外も受講可)	6月15日(水)17:30～(1時間程度) 臨床管理棟3階　大会議室 6月23日(木)17:30～(1時間程度) 医学部第4講義室	237
ー	11	医療訴訟ガイダンス 「誤嚥による事故の防止に関する注意義務について」	ー (安全)	(広島地方裁判所)龍見　昇裁判官，梅本幸作裁判官，田中佐和子裁判官 (弁護士会)大村真司弁護士，成廣貴子弁護士 (広島大学)井門謙太郎講師，副看護師長	全職員	11月8日(火)17:30～19:00 広仁会館　2F　大会議室	78

●新規採用者研修(※医療安全管理職員研修会には含まれない。新規採用者必修)

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
ー	随時	「新規採用者研修」	安全 感染	宮本　真太郎　専任リスクマネジャー 新谷　公伸　専任リスクマネジャー 森木　昌子　専任リスクマネジャー 大毛　宏喜　感染制御部長	病院新規採用者	4月1日(水) 医学部第5講義室 6/1～　e-ラーニング/DVD研修	490

別紙②

平成28年度　院内感染防止対策研修会

●医療安全管理部・感染制御部主催

【必修】

3/31現在

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
ー	6	蚊媒介感染症について	感染	感染症科　梶原　俊毅　助教	全職員	7月5日(火)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修含)	2,885
ー	10	「インフルエンザの基礎知識」	感染	感染制御部	全職員	10月下旬～11月上旬実施	2,761

【選択】

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
1	5	「正しく検査を行うために―検体採取から提出まで―」 「病理検体の正しい取り扱い」	安全 感染	診療支援部　津川　和子　検体検査部門長 病理診断科　有廣光司　教授	全職員 (新規採用者必須)	5月23日(月)17:45～18:45 医学部第4・5講義室	761
2	8	「新型アデノウイルス結膜炎の流行状況と感染予防対策」 「流行性角結膜炎発生時の病棟での対応」	感染	眼科　戸田　良太郎　助教 10階東病棟　松本　由美子　副看護師長 三原　真由美　副看護師長	全職員	8月1日(月)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	533
3	9	【専門医共通講習】「耐性菌の現状と課題」	感染	大毛　宏喜　感染制御部長	全職員	9月26日(月)17:45～18:45(1時間) 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	100
4	1	「肺炎に対するワクチンの話題」	感染	感染症科　梶原　俊毅　助教	全職員	1月24日(火)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修含)	233
5	3	「医療安全管理部／感染制御部・各部門年間活動報告」	安全 感染	医療安全管理部／感染制御部　各部門	全職員	3月8日(水)17:30～18:30 医学部　第4・5講義室(予定)	295
6	随時	「手指衛生」	感染	感染対策リンクナース	全職員	随時	350
-	随時	DVD視聴「ノロウイルス感染対策　基礎と実践」	感染		清掃職員	DVD視聴レポート提出	9

●新規採用者研修(※医療安全管理職員研修会には含まれない。新規採用者必修)

	月	テ　ー　マ	主催	講　　師	対 象	日 時・場 所	参加者数
-	随時	「新規採用者研修」	安全 感染	宮本　真太郎　専任リスクマネジャー 新谷　公伸　専任リスクマネジャー 森木　昌子　専任リスクマネジャー 大毛　宏喜　感染制御部長	病院新規採用者	4月1日(水) 医学部第5講義室 6/1～　e-ラーニング/DVD研修	490